業務資料 No. 787

No.

現地日本語教師の本邦研修記録

第 8 回

1 9 8 7 年 8 月

国際協力事業団

移国内
J R
87 — 17

現地日本語教師の本邦研修記録

第 8 回

1 9 8 7 年 8月

国際協力事業団

国際協力事業団
受入月日 '88. 3. 15 000
24.5
登録No. 17296 EMD

ま え が き

国際協力事業団では、既移住者に対する教育対策の一環として、主に戦後移住者及びその子弟を中心に日本語教育に対する援助（教師謝金の補助、教具教材等の整備、日本からの指導教師の派遣等）を行ってきております。

移住者子弟に対する日本語教育のあり方、あるいは施策上の問題点等は今後共十分論議を尽す必要がありますが、優れた教師の育成が日本語教育の推進上必要欠くべからざることは論をまちません。

しかしながら、現地日本語学校での教師の置かれた研修環境は恵まれたものとは言えないのが現状であります。

そこで、これら教師を本邦に招き、外国語としての日本語教授法、その他の知識を修得せしめるとともに、国内研修旅行等を通じ、日本の歴史、社会、現状等についての認識を深めさせることにより、教師としての資質の向上の一助にしたいというのが、この研修の趣旨であります。

この昭和54年度より開始した現地日本語教師本邦研修（３ヶ月コース）は本年度で８回目を、また昭和59年度から開始された６ヶ月コース（60年度から１ヶ年コースとなる）は今回で３回目を迎えました。

本誌には第８回日本語教師本邦研修３ヶ月コース15名、並びに第３回一ケ年コース11名の総括報告と、研修日誌等が集録されております。

最後に、本研修の趣旨に対しご理解と、研修生へのあたたかいご指導を賜わった玉川大学の諸先生方をはじめ、本研修にご協力いただきました関係機関の諸先生、関係者の皆様に感謝の意を表する次第であります。

1987年８月

国際協力事業団
移住事業部長

JICA LIBRARY
1041591[7]

目　次

まえがき

研修内容

研修総括報告書＜3ケ月コース＞…… 1

国	都市	氏名	頁
ブラジル	レシフェ	西谷江美子	1
	ベレーン	柿本ソメ	3
	〃	新井慶子	4
	リオ・デ・ジャネイロ	宮田好江	6
	〃	藤井美智子	7
	サン・パウロ	千田由紀	8
	〃	宮崎高子	10
	〃	上村スマ	12
	〃	水澤京子	13
	アルゼンティン	塚田ミサ子	14
	〃	吉田オラシオ	16
	パラグアイ	鍋山儀典	17
	〃	中古味寛	18
	ボリヴィア	松下春江	19
	カナダ	久保谷信治	21

研修総括報告書＜1年コース＞…… 23

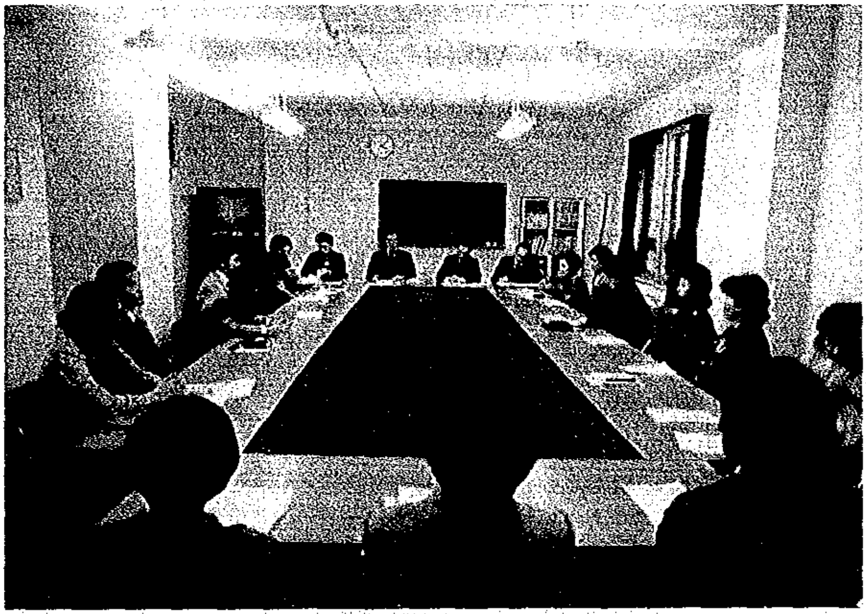
国	都市	氏名	頁
ブラジル	サンパウロ	肱岡春香	23
	〃	一甲　真由美　エジナ	25
	〃	松原　美智枝　ネウシ	28
	〃	福岡　ソフィア	29
	〃	黒田恵美	31
	〃	立山小百合	34
	レシフェ	井関泉	36
	パラグアイ	熊谷智美	38
	アルゼンティン	辻ロサ	40
	〃	中津海マルタクリスティーナ	42
	ペルー	星クラーラ	45

研修日誌…… 49

第8回現地日本語教師本邦研修日程表…… 167

昭和61年度研修生名簿…… 184

研修生一覧表



Aコース研修報告会（海外移住センター）

終　了　式　（Aコース）

終了記念撮影（Aコース）

A，B両コース京都・奈良研修旅行

A，B両コース京都・奈良研修旅行

A，B両コース京都・奈良研修旅行

Bコース研修旅行（江の島）

研修内容

1．研修機関　玉川大学

2．〃 期間

3ヶ月コース　1986年9月26日～同　年12月25日

1　年コース　1986年5月7日～1987年3月27日

3．研修概要

講義			見学研修・行事等	
講義名	担当教授	単位数	月日	事項
			9．26	来日（海外移住センター入館）
			27	センターオリエンテーション
			29	事業団移住事業部表敬訪問
			30	玉川大学オリエンテーション
日本語教授法	長野	14	10．10	玉川体育祭
日本語学Ⅰ	平山	7	11．3	玉川大学コスモス祭
〃Ⅱ	片山	7	21	〃　第九演奏会新宿厚生年金ホール
〃Ⅲ	上原	7	22	歌舞伎鑑賞　国立劇場
日本語生活研究	金平	14	28	玉川大学修了式
日本事情	瀬山	7	11.29～12．4	関西研修旅行
日本語教育概念	正善	7		
言語学習心理学	大竹	7		
玉川教育－概論	石橋	7		
玉川教育－音楽	追	4		
〃－幼稚部	高橋	7		
授業演習小学部	長野	7		
〃　中学部	菅	7		
習字		7		

研修総括報告書

期間：1986年９月26日～同年12月25日（３ケ月コース）

ブラジル国バイヤ州
ジュセリーノクビチエック日伯日本語学校
西　谷　江美子

1．当初、研修に期待したこと

伯国に渡り22年の年月が経過に至る。一言にして言えば過去となりましたが、並大抵の苦楽と毎日の生活は戦争そのものと言えた時も有りました。主婦の身として10年間は子産り10年間は子育てと大きく分けても片手には生活、生活費の生産と両肩に天秤をかついでいる様な生活状態です。ここ五、六年より末の子も手が離れて来た。環境（植民地全体）も今までより一層の日本人日本語としての言語を大切に考える様になったのか一般に日本語に感心を持てる現状、今までの日本語学校はささやかでもこの様な現状の中を20年近くも入植時より維持されて来た事は日本人の賜、命構えと言える習性かもしれない尊い先祖の知恵を日本人として受け継いで来た事は、大切な教えでもあった。言語の違う子弟の教育は難しい。子供は現地にとけこんで行く事は早い、親が大変だ、子供の様には行かぬ、やはり日本人としての言語、習慣も身につけさせてやりたいのが道だ。ここまで親達は子供に教育しなければならないこんな中を五里霧中で現地の中に生活共々する訳で親は親らしい事、てさぐりでジレンマに気が迷いる。こんな中で日本語、言語習慣等の相当な事が現実に目に手に体に体験出来る祖国にて研修出来る事の希望でここに実現した事は本当に嬉しい事だ。一生懸命自分なりにこの目で体で観察して日本の伝統、日本の生活、今の日本を大事に体験して行きたい。又教育では玉川教育を基本に２ヶ月の間ではありますが各々一応玉川学園の先生方の講義で勉強出来る事の有難さにしっかり習って行きたく思いました。ブラジルに帰り地域の子供達に少しでも役立って日本人として国際生活がまっとうされたら幸いと思います。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

日本語教育一世界的にも感心の持たれる様になった日本語、私ブラジル１植民地内での日本人としての母国語をとおして教えて来たし、又教えて行きますが、今の日本に研修に来て、日本国の現状母国語じゃなく第二国語として、又教授法としての教育内容等々と大変勉強になりました。短かい間の講義ではありましたが集中的に二ヶ月間の学習、欲を言えばもっと学びたい。内容を深めて勉強したかったものもありました。

ブラジルに帰りこれを基礎参考に現地の現状に合わせてより自分も勉強し、又子供達に教えて行きたい。多分今すぐとはこの勉強も無理が出るでしょうが決っして無駄にはならない良い指導が出来末永く後々まで尚一層の活動が出来る事を願っています。

3、今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

日本語も今回日本に来て言葉、漢字と大変日常語にしても変ってしまっていた。3ヶ月の研修では、とても全面的にはゆきわたらない事、日本に居ながらにしてこの様な中に勉強している人達も同様と思われる諸教師の方々の配慮も並大抵の事では無いと思うので要望と一口に言われても私も迷う、何をどう提言すれば良いものか？

① 集中講義は短期間由、良かったと思う。

② もう少し日本語学の研修には深く勉強したかった。

③ 授業演習―身近かでは玉川も良いが日本の公立とか、都会と農村（縣内）と両方の学校、学習の有り方を実地に経験したかった。

④ 秋、日本の秋あらゆる面で良い季節を選んでくれて有難たいと思った。この四十路にして尚感じさせられる郷愁。

4．所　　　感

（イ） 今回第8回本邦研修生として秋の季節を選ばれた事は時季にして本当に良かったと思う。

（ロ） 玉川学園で集中的な授業を受けられてこれも私には大変良かったと思う。慾を言えば授業によってはもう少し深く学習出来たらと思う科目もあった。

（ハ） 日本語研修で現地（日本人子弟）に対しての本当に身近に役立つ教育内容が組まれたらと思う。（例えば玉川の授業演習、モデルケースで特に日本の良い面での勉強が含まれているのでとても良いが反面、官公立の普通の姿の日本の小中学校の授業内容を参観したかった。

（ニ） 郷里研修があって少しはすくわれた。

郷里、夫、親代々で小学校鹿児島縣にて研修出来た事日本の自然、素朴さが大変嬉しく、又20数年ぶりの親族の再会、本当に一生の思い出深い何日か大変嬉しい事だ。

（ホ） 郷里研修での小学校見学、参観と二日間にわたり当日本の国語の時間、現場にて先生の実際の姿、子供達の姿が一番いきいきと生きた国語の時間になったし又小学校も祖父の代々からの出身校由、校長、教頭、諸先生等の本当に田舎の日本の教育に熱心な方々の日本国内の地域にもよる教育の有り方が良くわかる。

又、都会の教育法と一応統一されている現状でしょうがこの地域による変化も私達ブラジルの避地に近い子供達には共通するほのぼのとした姿が重なったりして生の生活がしのばれました。

ブラジル国アマゾナス州
マナウス日本語学校
柿 本 ソ メ

1．当初、研修に期待したこと

移住して25年になります。日伯国語教師として7年何時も自己の力の無さを感じて現代の日本の教育のあり方を学びたいと思っていました。人に教えることは本当になみたいていの事でなく、生徒1人1人をどのようにして成長させて良いか又どうかかわりをもって授業を進めるものか考えていたやさきの本邦研修で有りましたので、出来ることなら自己の資質向上のためと思い今回の研修に参加させて頂きました。感謝しています。

この研修を通して自分なりに見、体で感じ日本の伝統・生活・文化にふれ沢山の資料を肌で感じ二ヶ月の玉川での教育を基本としてこの日本の教育をブラジルに残したい。

又本当の日本のよさは、ブラジルに有ると云われるようにがんばりたい。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

今回第8回日語教師本邦研修生として参加出来ました事を嬉しく思いました。かねがね自己の力の無さをなげいていたやさきの事でも有り、今回の本邦研修は資質向上を深めれた事を大変嬉しく思いました。

ブラジルに帰り此の度勉強致しました講義を思い出しながら、教育とは何かを自分にとい人間性ゆたかな、人間作にがんばって参りたい。

又玉川で学んだ中で教師たるものは教材うんぬんよりもまず自分が生徒にとって何よりの教材であるとの教えを胸に生徒達とのかかわりを大切にがんばって参ります。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

● 本邦研修は毎年続けてほしいと思います。

1．　6月から9月頃までが良いと思います。9月26日～12月25日まではあまりにも寒く大変でした。

1．　1時限が90分は少し長いようで出来たら40分ぐらいが良いかと思います。

1．　玉川大学とセンターではあまりにも遠いので大変でした。

1．　玉川での音楽はほとんど（サンビカ）のようでした。私のような仏法者にはぴんとこない点が有りびっくりしました。

4．所　　感

此の度第８回本邦研修生として参加出来ました事心よりお礼申し上げます。25年ぶりの日本の土をふみ何か生きて帰れたうれしさが身にしみました。

● 玉川学園での授業は私にとって大変むづかしい事だけでしたが肌で受けとめ一言ももらさずにと緊張の連続でした。

日系日本人子弟に対する教育内容がもっと検討され玉川学園だけでなく外の学校見学とかセンターの中での外国にたいする日本語の内容のわかった先生の講義が必要ではないかと思いました。

郷里青森県の母校を見学し来春四月をもって廃校とうかがい何か悲しい思いでいっぱいでした。

生徒18名、何んと少なく淋しいと思いましたが、教頭先生が一生懸命に私に教えて下さいました事は玉川でも学ぶ事が出来ない様な講義でした。母校が無くなってもこの教頭先生の教えて下さった事をブラジルで子等に教えて母校が何時までも生きつゞけるようがんばって参ります。皆さんに感謝し郷里研修は本当に良かったとお礼申し上げます。

ブラジル国パラー州
トメアスブレウ分校
新　井　慶　子

1．当初、研修に期待したこと

1）日本語の正しい効果的な指導方法
2）複式授業に於ける効果的な指導方法
3）幼児教育に於ける教材、教具の作製方法
4）楽しく興味深く意欲的な指導方法
5）日本の文化、日本人の良さなどの最研究
6）歌あそび、リトミックの指導方法
7）全人教育について

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

a.　日本語は実用的には今や国際語の仲間入りをしました。特に日系人も多く日本企業の多いブラジルにあっては、日本語はますます必要な外国語となると思う。

b.　日系人である以上、日本語による親子の対話、ほこり高い日本の文化を少しでも理解させ、それをブラジルの生活文化に吸収させたいと思うことは切実な心情であり、義務であると思う。

c.　日本語教育は、日伯文化交流と親善の掛橋であると思います。

d.　日本語の指導は、指導は特に初心者に対して、歌唱と併用させると効果が早いので、音楽に

対しては私自身未熟ではありますが、一層努力したいと思います。

・興味があるから歌詞を早く覚える。

・言葉の持つニュアンスが理解される。

・発音、発声が美しく正確になる。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- 中南米から参加した者にとって、冬の11・12月は寒さと寒さに対する服装で苦労しました。特に私は郷里が北海道のため雪の中の研修ですから直の事でした。
- この研修制度には感謝していますが、玉川学園まで通学する時間が1時間半は見ておかなければならないので、時間のロスと疲労がプラスになっている様に思いました。
- もう少し幼児教育のプログラム（授業）と、小学部の授業演習を入れてほしい。今年はリトミックがなく残念でした。
- 移住国の事情によってそれぞれの差異があるが、日本で求めた教材、教具その他の教育資料を安心して持ち帰える方法を配慮して頂きたい。

4．所　　　感

- この研修を企画実施下さった国際協力事業団と心温い高度な指導技術による玉川大学の諸先生からご指導を頂いたことに心より感謝の気持で研修を受けました。
- 最初は、日本の生活について行けず疲労も多かったが馴れるに従って受講に力がはいり、終る頃にはもっと講義を頂きたいと思いました。又もっと広く今の日本を知りたいと思いました。
- 日本での研修は見るも聞くもすべて感嘆するばかり、これをあまり格差の低い現地の教育にどのように生かすか、嬉しい苦しみが又増えた感じです。
- 教育は子供と親と教師が一体となった、信頼と愛の絆によって行われることで、その効果を高めるのであるが、これに自然環境と社会環境の影響の大きなことを考えなければならないと思う。
- この三ヶ月、玉川の全人教育を通してその原点を学ぶ事が出来た事と、中南米各地の日本語教育について広く知る事が出来た事は今後の私の現地の授業に大きく役立つと思います。
- 私の住んでいるアマゾンは、学校の施設や教材・教具に不足があっても、又教師としての指導技術に欠けていても自然と社会環境の恵まれた条件を生かして人間らしい心を持った世界にはばたく子供に育ってほしいと願って今後も努力して行きたいと思います。
- 移住センターの皆様色々お世話になり本当にありがとうございました。

ブラジル国ミナスジェライス州
ミナス日伯文化協会教育部日語学校
宮 田 好 江

1．当初、研修に期待したこと

1 幼児教育
2 レクリエーションの指導法
3 教材研究
4 会話指導法（幼児への言葉使い）

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- 一人一人の子供を大切にし、音楽で楽しい雰囲気を作り、手作り教材で遊びながら日語学校が好きになり行くのが楽しいという授業にしたいと思います。
- どのような目的で日本語を教えるか目的に合う教材を捜し与えていきたいと思います。
- 研修で学ばせていただきました教師としての姿勢を一人でも多くの先生方に伝え、自分の授業にも生かしていきたいと思います。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- 研修期間は9月初めから11月末迄が良いと思います。
- センターの1部屋4人は無理だと思います。
- 研修スケジュールは早めに用意していただきたかったと思います。
- リオ管轄内にも多くの教師が本邦研修を希望しておりますので継続していただきたいと思います。

4．所　　感

頼まれるままに続けた日語教師ですし、今回、私達の学校から初めての本邦研修参加でもあり不安のみで、来日しましたが良き仲間と会え1人の落伍者もなく修了出来た今は、自信がついた事を感じます。

初秋の玉大で学んだ最大の収穫は教師とはどうあるべきかと言う事です。諸先生方の態度　授業の進め方、雰囲気作りの大切さに自分を反省させられました。

短歌作りを学び辞典を使っての漢字の勉強　助詞の説明　言語は感性であると教わり又関西旅行では個人では行けない所迄見学させていただき教授法では単元プログラム作りに悲鳴をあげたりした3ヶ月でしたが一生懸命指導して下さった諸先生方の熱意とセンターでの職員さん方の心遣いに

励まされて頑張り通しました。

ブラジルに帰りましてこの経験を活しブラジルの子供達に接していきたいと思います。

有難うございました。

ブラジル国エスピリットサント州
ヴィトリア日系協会日語学校
藤　井　美智子

1．当初、研修に期待したこと

1．日本語を楽しく学ばせる方法

2．日本語の効果的な指導法

3．超複式授業の進め方

4．作文指導法

5．年間指導計画のたて方

6．教師としての教養を深めたい

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

ブラジルで必要に迫られて日語教師となった私には、教えることに自信がなく、一番大切な時期にある感受性豊かな子供達にどのように接し、どのように導き日本語の特性、日本人の国民性を伝えたらよいのか、悩んでおりましたが、この研修によってその方法を少しは、掴み得たと思っています。又、日本人が3000年の昔から守って来た文化遺産である伝統美術芸術を伝えてゆくには、いかに日本語が大切であり、必要であるかを私自身この研修で痛感いたしました。ですから、生徒達にその重要性を説き、日本人としての誇りを失うことなくブラジル社会に溶け込み国際人として生きる２、３世の日語教育に微力乍ら尽力したいと思っています。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1．小学校低学年の授業参観をもっと多く。

2．玉大での研修で小宮路先生、永井先生、迫先生の授業を増して欲しい。

3．教材開発の時間も増して欲しい。（例えば正善多寿子先生）

4．本邦研修決定通知、必要書類等の連絡を早めに。

5．スケジュール表を来日前に早めに。

4．所　　　感

日本の四季のうちでも一番美しく味わい深い秋の季節に24年振り、再びこうして日本の土を踏めようとは、思ってもいなかった私に、３ヶ月もの長期に亘って、素晴らしい研修の場と機会を与えて頂きましたことを国際協力事業団、玉川大学国際教育室、関係各機関の皆様に心よりお礼申し上げます。

さしたる才能もないまゝに、地域社会の子弟教育の為にと、おもいきって、参画していたお陰と感無量です。

出発の際は、果して私のような者が玉川大学での高度の講義についてゆけるのだろうかと、不安で一杯でしたが、玉大の先生方の熱意ある講義御配慮に安堵し、又、共に南米各国から派遣された、昨日まで名前も顔も知らなかった15名の仲間達と同じ使命に燃えて通う玉大での難しい講義も、互いに助け合い、励まし合って、いつしか不安も消えて和気あいあいの内に、研修を終えることができました。長かったようでなんと短かった３ヶ月、それぞれの国に帰っても、この玉大で得た、貴重な知識や豊富な体験を、大いに役立て、活用すべく、お互い連絡し合い、共に伸びてゆこうと誓い合って又の再会を約しました。

玉大のスローガン、全人教育の根幹となる、真・善・美・聖・健・富に一歩でも近づく為、努力研鑚し、講義室に掲げてありました

“教育の秘訣は、子供を尊敬するにあり

　　　　ゆめ子供の欠点の看破者たるなかれ”

小原国芳先生の素晴らしい言葉を座右の銘として日語教育の為尽力するつもりでおります。終りになりましたが、センターの皆様には、親身にもおよばぬお世話をいただきましたこと厚くお礼申し上げます。

ブラジル国サン・パウロ州
学　習　館
千　田　由　紀

1．当初、研修に期待したこと

ブラジルサンパウロの日系人に第２言語として取り入れられている日本語はもう多くの家庭では使われなくなりつつあり、話す人達も年々と少なくなって来ています。現在日本の進歩と共に日本の企業がブラジルに入って来るに連れて日本語もだんだんとブラジル人や日系人の中で社会人として必要な言葉となって来ました。

そのような環境の中で日本語を教えている準２世の私は言葉を教えるだけではなく、その背景になっている国の文化や伝統や習慣を自分自身実際に体験して少しでも生徒に伝えてやりたい、日本

又は日本語に対してもっと知識を得て勉強したいと願って来ました。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

玉川で受けた授業のお陰で日本語に対して基礎的な事を色々と学ばせていただきました。

関西旅行や歌舞伎見学で日本の文化、歴史を少しでもブラジルの子供に話してあげる事ができるようになり、これからも日本に対しての知識を深めて行きたいと思います。

言語教育面もただ言葉を教えるだけではなく遊びやリズムの中で教え、体で感じさせながら生徒の関心や興味を生活の中で活動していく事を研究しながら生かしたいと願っています。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

3ヶ月研修もアッーと言う間に過ぎてしまい後からこれもあれも勉強したかった、見学したかったと思う気持で終ってしまう事をさびしく感じています。

① 時期的にはよい季節でしたが、十二月の暮のいそがしい時にぶつからないようにしてもらいたい。

② 玉川大学の研修ばかりではなくインテルナシオナルスクールのような外国人を教えている色々な日本語学校の見学をさせてもらいたかった。

③ 白鳥先生、正善多寿子先生や石井和夫先生の指導を数多く受けたかった。

④ 玉川大学で受けた教授法についての講義も日本の子供を対象ではなく外国人子供を対象としたもっと実用的な指導を受けたかった。

4．所　　感

今回の研修は5才で日本を離れ、日本語もブラジルで学んだ私にとっては言葉や能力の面においてはほかの日本語教師研修生と比べてハンディキャップがあるのではないかと不安でしたが、皆様の暖かい心づかいと共にセンターでの生活も楽しく、無事に全過程研修を終える事ができました。

玉川大学への通学も距離的には少し遠く感じましたが熱意をこめて指導してくださった先生方に引きこまれるようよい授業を受ける事ができました。中には難しい講義もありましたがなんとかブラジルにおみやげに持って行けるものならぜひ取り入れたいと言う気持で勉強にはげむ事ができました。

郷里研修でのおだ学園幼稚園見学も子供達の生き生きとした実際の技業中の姿と共に遊びの中で言葉を育てながら豊かに使いこなすのを視察させてもらいました。

ジャパン　インテル　ナシオナル　スクール見学も私達南米教師にとってはとても参考になるものばかりでした。

この研修でもっとも感じたのは自分独特な教え方を生かせていけばその発想によって自分なりの

よい教育ができる事でした。

関西旅行でも日本古代の文化を目にし、その良さを少しでも味わうことができました。

日本文化の最も代表とされている歌舞伎を鑑賞させてもらい川崎東芝見学によって日本の高度技術のすばらしさを拝見できた事を心から感謝しています。

ブラジル国サン・パウロ州
宮崎高子日本語学校
宮 崎 高 子

1．当初、研修に期待したこと

研修テーマとして持ってきたのは、下記の事項である。

1） 日本の国の文化、伝統、習慣を学ぶことによって、日本を知る。

2） 日本を知る努力をすることによって日本人とは、どんな物の考え方、発想をするのかを理解する。

3） 日本人の心がわかるとブラジルの日系人に、どんな良い面を伝え続けていくかを知る。

4） ブラジルでの日本語教育は、どうあるべきか。

5） 日本がなぜ急速な高度な工業技術の発展を成し得たのか。

6） 日本の現代の教育の欠点の原因を知る。

7） ブラジルでの児童教育に必要なリクレーションの習得。

8） 日伯交流は、どうあるべきかを知る。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

(1) 日本語を学ぶ者に対して、日本の文化、心を伝えたい。

(2) 日本語を教えるには、音声言語は知識の獲得ではなく感覚であるから、その背後にある「構」を生活の中で教えなければならないので、その構えを教えていきたい。

(3) 数多く学んだリクレーション・ムーブメント・リトミックを全伯日語教師に伝えて、それを創造性をのばす一端にしたい。

(4) 日本の良さをブラジル人、日系人の日本語を学ぶ者に伝える事によって日伯交流に役立ちたい。

(5) 今までの漠然とした日本語教師としての態度を正して、はっきりした目的を持って自分の使命を果たしていきたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

(1) 玉川大学での講義は、大変興味深く意義深かったが、「日本語教授法」は、講義時間を半分に

し、その分、ジャパン・インテルナショナル・スクール見学や教材開発研究、石井先生のリクレーションを殖した方が良いと思う。又日本古来の文化に接するために「能」「華道」「茶道」「日本音楽」その他をできるだけ入れて欲しい。

理由　「日本語教授法」はあくまでも日本においての第1言語としての教授法であるから、第2言語として教授している我々には、参考になっても直接には関係がない。指導案作りの宿題にしても、ひどく頭の中の混乱をまねき、徹夜でしたために大変体力を消耗した。それにひきかえ、第2言語として教授するジャパン・インテルナショナル・スクール見学やそのための教材開発、リクレーションは、実際にすぐ役立ち有意義である。

(2) 研修プログラムを組む時に、外国で日本語を教える我々に最も必要な日本の文化、高度な工業、社会に触れる場をできるだけ多く取り入れるべきだと思う。首都東京見物一つせずに帰るのは、残念である。

4．所　　感

ブラジルに於て日本語を教えるためにその背後にある国の文化を教えなければ生きた言語を教えられない。と常に考えていたので、この研修をさせていただいたお蔭で、日本の歴史を通して古来の文化を学び、それを現実に奈良、京都の研修旅行の場で本物に触れる事ができた。今まで書物などを通してしか知らなかったので、その偉大さがわかり、「わび」「さび」の心髄を少しでも体験によって理解しえた事は、大きな喜びである。

「歌舞伎」の講義を受けてからの鑑賞は、舞台芸術家の一員であった私には、静の動きの中の情熱の素晴らしさを知り得てうれしかった。

「リトミック」「ムーブメント」このような言葉さえ知られていないブラジルの児童に、その学習を情操教育として利用できることが少しでも教育の成長につながると思うと大変うれしい。センターでのリクレーションの講義で遊ぶ姿の中に創造があると学んだが、その創造性をのばすことが忘れられてはならないと思った。

ブラジルの日系2・3・4世に我々日本人1世として、しなければならない事として、日本語教育を考えると、その使命の重大さに気づいた。「言葉を忘れた民族はやがてその活力をなくす」といわれている。そうあってはならない。言葉を伝え続ける事によって、日本のすぐれた伝統、文化、工業技術を、留学などによっても学ばせて、ブラジル国の発展に寄与する日系人を育てる事ができたら大きな喜びである。

私の多くの研修テーマは、ほぼこなすことができた事を心から感謝し、後から歌舞伎鑑賞、インテルナショナルスクール見学を希望して、かなえられた事にお礼申し上げます。この研修で得た事は必ず、これから生かしていく覚悟です。

ブラジル国パラナ州
アシスシヤトーブリアン市日本語学校
上 村 ス マ

1．当初、研修に期待したこと

渡伯して32年にもなるので教師として現在の日本を見また、歴史や文化も一歩踏み入って勉強し複式授業の能率を上げる方法等を習得することと人間性豊かな全人教育に期待した。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

玉川で受けた全人教育、又学科ごとの指導要領をもってよい授業　よい教師　子供の心身の特性についての認識、指導力によって子供の能力をかえていけるような教師になれるよう日本語教師研究会を通して指導技術の発展に努力したい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・　人間性のうすれかけた今玉川学園の全人教育がいかに大切であるかを高橋靖直先生の授業で学び日本の心を教えさとす理想の学園　玉川大学への研修制度を今後共続行して頂き、出来れば増員して欲しい。

本邦研修に支給される金額を現地にいる間に知らせてもらいたい。日本に着いてから今年のように急激に例年にない下りかただと期間中配分しての出国費までに頭をいためたので早めに連絡してもらいたい。

時期的には涼しくてよかったけれども郷里研修が年末になり多用、多忙の中で落ちつかない感じでしたのでもう少し早めて９月初〜11月に終るようにお願いしたい。

郷里研修期間が長かったという方もいたが遠い者には今年ぐらいでないと行けませんので約10日は必要。近い者は近いなりにセンターから自由にその期間中授業参観なりのよゆうを与えて欲しい。

4．所　　　感

神戸の移住センターから船内学校と約二ヶ月半にわたって子供達と共に勉強を続け最初の寄港ベレン港での下船の際、両岸にこだました児童の「先生さようなら」の叫び声に胸うたれるものがあり、教育の原点にかえっての玉川学園の全人教育というものを学びたく思い32年ぶり訪日研修の機会に恵まれました。

長いようで短かかったこの三ヶ月間は浅学な私には一部理解に苦しむ点もありましたが、自分なりに一生懸命学び取ったつもりです。

特に今回は9月からというはじめてのコースで授業プログラムだけで11月末までは勉強も講義のみで学識浅い私には期待の玉川教育理念について学び教師と云う仕事を思い知らされ今日までの自分を良く反省し教育にあたらねばと痛感致しました。（十二月に入って私たちの要望をかなえて下さり関西見学旅行は日語教師をするものには欠かせない貴重な勉強で日本文化の知識を得文化伝承に自信を得ることが出来た。）

今回は特に玉川学園の体育祭、コスモス祭と学生達の学業の熱意を見せていただき体育祭の小原学長の太く短い御挨拶は私達研修生の心に深く肝銘させられました。

郷里研修に先だち私は玉川学園国際教育室、又国際協力事業団の特別なおはからいを得まして、友好都市文通交換校を訪問二日間の意義深い研修をさせていただく事が出来ました。教育目標はやはり全人教育がかかげられ日本全国に広がり南米始め世界に広まると思います。

講義して下さった先生へテープなどもお願いし貴重な教材と書籍をいただき感謝しております。帰国後はこれを生かし活用し、研修の成果をあげる様努力致し度く思っております。

この三ヶ月間にわたって御指導御配慮賜りました事業団の皆様、移住センターの皆様並びに玉川学園の先生方にこの御恩を返すは子弟の育成にありと信じお世話下さった多くの方々に感謝し、厚くお礼申し上げます。

ブラジル国サン・パウロ州
サウデ日本語学校
水　沢　京　子

1．当初、研修に期待したこと

1）　現地での教材作りに役立つ教科書研究をしたい。

2）　外国語としての日本語教育を　日本でどのようにやっているか知りたい。

3）　初歩の文法をもう一度やり直したい。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

講習を受けてまだ頭の中が整理されていませんが、現地の３、４世を対象にした教材をきっちり作ろうと思います。

現地で11年間毎日いろいろな困難にぶちあたって四苦八苦していれば知らずにテクニック面で経験を積んでいたのでしょう。私たちも少し自信を持って良いのではないかと思いました。

しかし、教材に対する研究が浅かったと反省しています。長野先生が言われたように時間をかけて研究してみます。

ただ220 名の生徒全員が違う教科書、違うページをやっている超複式をどうするか、又サウーデ

文協日語校でも、そろそろ日語教師後継者問題も考えておかなければいけないので、来年は忙しくなるでしょう。

今回の研修を活かして頑張ります。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1） 早めに3月間のきっちりしたスケジュールをお知らせ頂けたらもっと良かったと思います。スケジュールが分からなかったので時間のロスがだいぶん有りました。

2） 何人かの小数の先生の持ち時間を長くとって、もっと詳しく勉強させて欲しかったと思います。4こま位では先生の方でも何をやって良いのかお困りでしょうし、私たちも物足りなく思いました。

3） 12月は時期的に忙しいので11月末に帰れるように、スケジュールを組みなおして頂けませんでしょうか。郷里研修に行ってそう思いました。

玉大のご都合もお有りでしょうがご検討下さい。

4．所　　　感

研修に参加することが出来てとても良かったと思っています。

各自が現地に帰ってそれぞれの学校で成果をあげるのはこれからの問題でしょう。

又　成果をあげなければ今回の研修に来た甲斐が無い訳で頑張らなければいけないと思っています。

文部省で日本語教師検定試験制度を2、3年後に実施するそうですが、それに現地日本語教師が受験出来るかどうか、おおいに関心が有ります。受験資格の有無にかかわらずそれを目標に勉強して行きたい思って居ます。

Aコースは3年後にサンパウロのサウーデ文化体育協会日本語学校で同窓会を開くことになっています。その時、どんな結果が出ているか楽しみです。　その結果は事業団にご報告致します。

いろいろ有り難うございました。心より感謝いたします。

アルゼンティン国アルパタカル
メルロ日本語学校
塚　田　ミサ子

1．当初、研修に期待したこと

1．玉川の全人教育はどの様に行われているか

2．新しい教育機器の実際とその活用、日本語の基礎

3．教材の開発研究

4．日本の歴史、文化芸術等への接触

5．時代の先端を行く工業技術等と古来からの日本の生活を短期間に経験、体験出来る

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- 日本の現代の姿を日系社会ばかりでなく、出来るだけ多くの知人、友人に知っていただきたい。
- 日本語教育ばかりでなく、日本古来の文化や芸術の一端も折にふれ話す様に努力したい。
- 玉川教育の重心たる人とつくる教育に関心を持ち、日本語教育に携わっていきたい。
- しっかりした計画のもとに、日語を教えていくために、玉川での研修（日本語の基礎、指導計画その他）を生かし、引き続き日本語教師を続ける。
- 喜んで、楽しんで日本語を学んで貰うために、今後も努力する。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1．２ヶ月間の集中講義はよいが、その中に多少、他の学校（外国人等を教育している）や、体操、音楽等入れてほしい（今年は少なすぎた）

2．期間としてはよかった（12月中旬の出身地研修等をもっと早くする）

3．中学部参観をもっと考慮して欲しい。

4．３ヶ月のプログラムはあらかじめ作り、研修生に最初から提示すべきと思う。

4．所　　　　感

1．期間としてはよかった。（但し12月中旬の出身地研修日は考慮すべき）

2．３ヶ月間の予定はあらかじめ決められていた方がよい。（今年は12月の予定が全く空欄だった）そのため一同はじから不安だった。

3．10月、11月と集中的に講義が多く、多少、他の学校参観、音楽等の時間も取り入れてほしかった。

4．中学部演習はあれだけ時間をさくのは、もったいないと思う。授業参観後の質疑応答等は特に無駄で、今更自国の学校のことなどから問題点を出したところで、仕方がない。

5．出身地校研修については、少し不公平な面があった。特に東京都出身の人々については、もっと考慮してほしいと思う。（通学、旅費、その他の面で）

6．センターでの生活は快適だったが、何回も移動があり、特に行事とぶつかったりして多忙な思いをした。

7．食生活ではもっと野菜を取り入れて欲しい。住の面では４人同室にもかかわらず、大変うまくいったが、荷物のおき場所もなく不便を感じた。

8、センター内の規律は各自守るべきだが、一部の人々は通常日でも一時、二時まで、部屋を訪問したり、大声で話したり大変迷惑だった。

9、20年振りの日本での生活、本当に良い想い出になります。

ありがとうございました。1986. 12月25日

アルゼンティン国ブエノス・アイレス
ウルキーサ日本語学校
吉田 オラシオ

1、当初、研修に期待したこと

いうまでもなく私、日語教師の資格も学歴も浅い者が研修に参加することは、

- 日語教師としての資質向上
- 実さいにこの目で、日本事情を再認識することで視野を広げること
- 玉大の全人教育に、大きな関心がありました。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

玉川の先生方の講義は、私にとって日語校に携っている間、一つ残らず欠かせない重要な事柄で糧であり、骨となり肉となったような思いです。

二ヶ月間に詰め込んだ勉強が明日からそのまゝ使用する自信はあまりありませんが、今後の日本語学校はこれらの演習の場となるでしょう。

一つ一つつめ込んだ者を引き出して、実演し反省し、一歩々々自己の教師としての資質を錬磨したいと思っています。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

今後の本邦研修制度に対しての要望として、今後現地に於いて、日本語教師を志す者には、是非この制度を続けて欲しいと思います。

研修に参加して得るものは、各自異なると思うし、やはり「百聞一見に如かず」で本人自身が体験することである、と思います。

現地（アルゼンチン）の先生らは、この制度に対して憧れを感じているし、これが一つの大きな教師の励みとなる原動力であるといっても過言ではありません。

4．所　　感

三ヶ月間の研修を顧みて思うことを一つ一つ記載しますと、

・ 先ず初めに口でいい表わすことの出来ない、言い尽くせない感謝の気持ちです。

・ 玉川の講義が専ら我々研修生のために設けられていた事。

・ 沖縄出身の私には、内地を踏むことは、初体験なので、つまり五十一年ぶりに見る奈良京都研修旅行、歌舞伎等も、日本を彩るような秋の紅葉数多く一生忘れ難き思い出となるでしょう。

・ 「多少の縁」とでもいうか、十五名の研修生、三ヶ月間の親しい交わり、嬉しくてたまりません。

二、三年後に同窓会を持って、再会することを約束し合い、今から楽しみにしているので、お別れも，少し辛いけれど又会える望みがあるので……

・ 三十五年振りに再会した小中学校時代の友人、知人、とてもなつかしく、その喜び、感慨無量である。

・ この研修で悩んだことは、時差ボケでした。初めの一ヶ月間は、勉強も頭に入らず、効果的でなかったと思う。

その一ヶ月の期間を講義以外の時間にくりまわすことが出来なかったのかなと思いました。

パラグアイ国アスンシオン

アスンシオン日本人会日本語学校

鍋　山　儀　典

1．当初、研修に期待したこと

1．玉川の教育理念とその実践の見学。

1．日本語教授法。

1．日本語学校の見学。

1．古典から現代の芸術観賞。

1．工場見学。

1．各校の先生方と情報交換。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

玉川で学んだ教育理念、日本語教授法等を可能な限り実践したい。また、日本、日本語を含んだ日本文化について、さらに深く考えてみたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

玉川大学で用意して下さった講座はどれも貴重なものばかりで、感謝しておりますが、それ以上に、自分の得意な方面、興味のある方面の講座に出席したかったと思います。少なくとも選択科目があったなら、と思います。

個人的に動いて、とも考えたのですが、やはり他の人もいることで出来ませんでした。

4．所　　感

＜海外移住センターの生活について＞

食住について特に要望するものはありません。まことに快適な生活でした。ただ、Ａコースの人々は問題はなかったのですが、若い人々（子弟研修、Ｂコース、開発青年）でセルフコントロールがきかない人が一部にいて、何しに来たんだ、と思われた人がいたのが残念でした。やはり、独身者は別棟の寮生活がいいと思いますが、施設の問題があって現状なのだと考えています。

また、ホテルずまいがありましたけれども、生活に変化が持て、よかったと思います。

＜玉川大学の講座について＞

どの講座も内容のある、将来を考えたものだったと思います。一日３時間から４時間の授業（１時間90分）でくたびれましたが、土曜日が休みなので気分的には楽でした。ただ、宿題やテストが少なかったので、何か物足りない気持ちも残りました。長野先生の授業だけ、玉川の若い学生達と受けることができ、変化があってとてもよかったのですが、他の講座においても若い人々と学んでみたかったと思っています。

玉川以外での研修も大変よかったと思います。コンサート、歌舞伎見学、奈良京都の研修旅行など貴重な経験でした。特に、瀬山先生と巡った古都の思い出は、一生忘れられないものになるでしょう。

＜出身地研修について＞

渋谷にある東京日本語学校へ通い、入門クラスから上級クラスの見学をしたのですが、教授法において、参考になることがたくさんありました。また、自分がやったら、もっと中身のこいものができるなあ、と感じた授業もありましたけれども、どれも楽しい授業でした。外人とはいえ、いいかげんな日本語、日本を教えてはいけないんだなあとつくづく感じると同時に、これからも、さらに日本文化について学ばなければならないと自覚しました。

パラグアイ国イタプア県
ピラポ第一日本語小学校
中古味　　寛

1．当初、研修に期待したこと

1．日本における小学生に対しての教授法と生徒の授業が、パラグァイとどのように違うか。

2．25年昔の我々が子供の頃と、現代の学校の校舎・教室・教具等がいかように変っているか見る。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

教え方の基本は変えないが、研修を受けてよかった事は取り入れてゆく。そしてパラグァイの子供たちが今までより以上に日本語を習得し上達するよう、私自身が増々勉学に励み、パラグァイの日本語教育のため努力してゆく決意です。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1．今回の９月～12月は気候的に大変良かったと思う

1．研修期間中にセンターから厚木へ移転したことは遺憾である。

1．できることなら、パラグァイを（研修生）２名以上に増やしていただきたい。

4．所　　　感

一介の農民である私に祖国日本で日本語を研修させていただいたことに心から深く感謝致します。

ボリヴィア国サンタ・クルス州
ヌエバエスペランサ小中学校
松　下　春　江

1．当初、研修に期待したこと

- 日本語教授法をできるだけくわしく学びたい。
- 日本の自然　文化　習慣など実際にふれ日本人のもつ短所・長所を再認識するよすがとしたい。
- 当地の子どもたちに「なぜ日本語を学ぶのか」をはっきりと納得のいくようなこたえをさがしたい。
- 「全人教育」の説明をききたい。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- 学習指導計画を立て効率のある楽しい授業ができるように。
- 生徒一人ひとりを大切にいかす教育をしたい。
- ちょっとした工夫で教材を作ることもでき、興味をもたせ、効果をあげる。
- 何といっても教師自身の資質の向上　人間として（人格）又授業の技術、知識など常に向上心をもつこと。教師としての心構えが大切であることを自覚し、日々努力したい。
- このたびの研修で学んだことを出来るだけ多くの方に分け与え共に日本語教育の充実向上に励みたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- よく考え 改善されたプログラムだと思います。

多方面にわたる研修内容がおりこまれ、実り豊かな研修でした。京都奈良研修旅行は特に良かった。

- あつい時期をさけ、この時期がとてもよかった。
- 本邦研修制度をいつまでもつづけてほしい。
- 研修者が当地を出発する前に研修のプログラムを用意いただければ、心構えのために、ありがたいと思う。

4．所　　　感

移住地の日語教師をして14年の月日がすぎてしまいました。その間、日本語教育の方法もよくわからないで、これでいいのだろうかという不安を持ちながらもいろんな方のおかげで今日まで来ることができました。ともすればマンネリ化した教え方にゆきづまり、新しいものを求めている折も折、国際協力事業団のお招きで本邦研修ができるようになり大変うれしく思いました。教育技術などできるだけたくさんのことを研修したいという希望を持って参りました。

- 真・善・美・聖・健・富という価値観や要素を追求する「全人教育」という基本理念の上に心身をもつ人間の個性尊重を目ざす玉川学園の教育法は、教育の心髄をついていると認めながら玉川学園のすべての先生方が、その教育理念に徹し、一人ひとりの子どもを大切にし、そのしゅん間を大事に教育のつみかさねをしておられる姿を現に拝見して感銘を受け、また倣うべきと反省しました。理想をかかげることはできてもそれを実行し続けるのは平凡な努力ではできないと思うからです。日本語という「ことば」を教えながら日本文化を伝え、又人間を育てるという事を再認識し、一人ひとりの子どもを正しく把握することからはじめようと思います。
- 「日本語教授法」の勉強はことの外よかったです。

「大きなかぶ」や「動物のへんそう」などの教材で実際に授業計画を立てそのすすめ方など具体的に指導していただきました。プロとして子どもたちの可能性を把握し、予想して対処すべきなど時にはメスを入れられる思いがしましたが、教育者としての資質・知識・技術の向上に絶えず励まねばならないと痛感させられました。その理論もさることながら、先生ご自身の十余時間の講義そのものが習得すべきよいモデルでした。

教育愛を持つということは、生徒一人ひとりを大切にし、教師自身が資質や技術をみがき、授業を楽しく、効率あるものにすることによって、授業の中でその教育愛を示すほかはないという事です。

- 「なぜ外地のこどもに日本語を学ばせるか」

こどもたちが「ぼくたちはボリビア人なのにどうして日本語を勉強しなければならないの」と質

問してきました。「お父さん、お母さんたちと心おきなく話すため、日本文化を知るため、回覧ばんがきたとき困らないように……」などあわててこたえたものの、実ははっきりとしたこたえを持っていなかったのです。そしてそれは、正しく答えるためばかりではなく、私自身が信念のようなものをわきまえて、子どもたちの前に立つ心構えとなるものを求めていたのです。沢山の先生の講義の中から自分なりに受けとめました。

親子のコミューニケーションのためはもとより、日本文化を身につけ、日本文化・芸術・風俗・習慣の伝達のために大切な条件であること。

ことばは、その国の文化とむすびついており、その人の人格に大きく影響します。「ことばは文化そのもの」「日本語が日本人をつくる」などのことばがあちこちの講義の中で耳にはいりました。これから国際人として生きる彼らが日本人としてのアイディンティティーを見につけるために日本語を学ぶことは大切なことです。

しかしここでひるがえって考えてみるとき、「…のために日本語を勉強しなさい」ということも大切ですが、それ以前に、彼らに日本を、日本人を、さらに日本語を好きになってもらうことが私たち教師にとって大切なポイントではないかと思うのです。そのためにはまだ多くの課題がのこされますが、まずは、子どもたちが楽しく日本語を勉強できるように、このたび研修で学んだことをフルに活用し積極的に努力して参りたいとおもいます。

カナダ国ブリティシュコロンビア州
バーナビー日本語学校
久保谷　信　治

1．当初、研修に期待したこと

① 教師としての専門的な教育を受けたことがない私でしたから今回の研修で指導方法を学びたい。

② ほかの土地での学校のようす、苦労やその中からうまれたアイデアなどを交換し、自分のものとしたい。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

1．帰ったらすぐに指導計画を作ってみようと思う。

2．B．C．州のほかの学校の先生達にも指導計画を作ることをすすめる。

3．つめこみの授業ではなくゲームなど取り入れて楽しい授業を行って、まず子供たちが学校に来るのが楽しいといってくれるようにしたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・ 最初の一ヶ月は慣れない為、大学の授業がたいへんでした。出来ることならば、見学などを初めにもっていって、日本になれてから大学の授業に入ると良いと思います。

- 今回は新しいプログラムだったからなのかもしれませんが、次回の研修では３ヶ月のスケジュールを事前に作って下さればもっと時間をうまくつかえたと思います。
- 研修期間が９月の初めから11月の終りだったら良かったと思います。

４．所　　　感

- 研修の期間が秋だったのは本当に良かったと思います。
- 現地で長く教師をしていると、自分でやっていることが正しいのか正しくないのかわからなくなりますので、今回のように日本に来て、大学で専門的な日本語教育の指導を受けられるということは本当に良いことだと思います。
- 帰ったらカナダの日系人に正しい日本語を教えるように精進したいと思います。
- 学校で学ぶということからはなれて、19年ぶりに授業を受けて本当に学習の大切さを知った。

研修総括報告書

期間：1986年５月７日～1987年３月27日（１年コース）

ブラジル国ビリチーバミリン市
ビリチーバミリン日語学校教師
舩岡春香

1．当初、研修に期待したこと

◎日本語を外国語として捕らえ、それに伴った教授法を学ぶ。

◎教材、副教材の研究。（作成と使用）

◎現地で自分で納得できる説明ができるために、日本の伝統的な行事や芸術を実際に体験し、理解すること。

◎生徒に楽しく、遊び乍ら日本語を習得させるための手段としてのゲーム、レクリェーション等の指導法を学ぶ。

◎外国語としての日本語が日本でどう教えられているかを実際に見ること。（成人そして子供を対象とした日本語教育）

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

◎今回の研修で自分の日本語、そして日本に対しての知識がまだまだ未熟であるということを再び思い知らされたため、帰国してからは教え乍らでも少しずつ深めていきたいと思う。

◎現地で受け持っていたクラスでは複式授業を行っていて、そのことで非常に頭を悩ませていた。しかし、複式授業であるということは単式授業に比べると、確かに不利な点が多いが、必ずしも授業を能率の悪いものにするとは限らなく、広い目で見れば単式のクラスに比べると、単式にはない利点が多くあるので、それをいかにうまく利用するかを考えることが大切であるということを言われたので、これからは以前とは少し違った観点からこの問題をみることができると思う。違った観点からこの問題をみ、徐々に悩みが解決できるため、複式のクラスをいかにうまく生かすかについて勉強していきたいと思う。

◎ゲーム、レクリェーション等のものを授業に取り入れ、日本語を楽しく体で覚えられるようにしていきたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

私達の日本での研修も終わり、日本で生活できる日々も残りわずかになった。泣いたり、笑ったり、怒ったり、怒られたり、ときには絶望しかけたりした日々もあったが、振り返ってみると、本当に貴重な掛け替えのない経験のできた日々であったと思う。

日本語教育にしても、他のことにしても自分の国、そして実際の仕事場から離れて、そういったことを客観的にみることができたということも、掛け替えのないことの一つである。

私達の前半の講義は大方がセンターで行われ、玉川へ通うのは週に1回だけであった。センター内で講義が行われたということは本当によかったと思う。しかし、講師の方々の中には、講義の内

容と、講師の方が専門とするものが一致していなかったり、私達のような日本語教師を御指導なさる経験をお持ちでなかったり、私達一人一人の日本語能力を御存知でなかったりする講師がいて、せっかくの講義が時間的にも、内容的に無駄の多いものとなったことが何回となくあった。これは非常に残念なことであった。これを解決するための手段の一つとして、受講生の一人一人の現地で置かれている立場、日本語に対する能力等を講師の方々にはっきりと伝えておくということができれば良いのではないのだろうか。それから、講義をなさった方々の中には、日本語を国語として見なかったり、外国でいろいろと経験をお持ちの方がいらっしゃったが、そういった方の講義は大変ためになったと思う。

屋外研修に関しては、どれも私達にとっては有意義であったと思う。しかし、中にはせっかく足を運んでも、授業の見学をさせて下さる先生方に私達の行くことが伝わってなかったり、私達の見学したいと思っていたクラスが行われていなかったりしたことがあったので無駄足を運び、期待はずれになったこともあったので残念であった。屋外研修の場合各学校へは1回しか訪れないためそういったことが起こると本当に残念でたまらない。私達、そして見学させてくださる先生方が気まずい思いをしないためにも、こういったことは前以て確認してある必要があるのではないのだろうか。

出身地研修の際、私は両親の出身地で研修はしなく、他の県でさせてもらった。一応出身地研修となっているためこういうことをやることにあたって、迷わなかったことはない。しかし、この研修の目的は、両親の出身地へ行き、両親の生まれ、または育ったところを知ると供に日本語の研修をするということになっていた。私にはどう考えても、両方のこと、つまり自分のしたい研修と他のことが一致しなかったため、他の地へ行ったのである。私にとってこの他の地、神戸での1週間の研修は本当に有意義で貴重なものであった。横浜では見ることのできなかった外国人、それもいずれは各国へ帰る子供達の日本語教育そして日本の学校とは全く違った雰囲気の中で行われている授業を申し分なく見ることができ、そして参加させていただいて、本当に良かった。小さな外国人のための日本語教育だけではなく、神戸大学の付属小学校で帰国子女のための日本語のクラスも見学させていただき、今までとは少し違った授業風景をもう一度見ることができた。この1週間で得たことは本当に掛け替えのないものである。

この出身地研修で参考になること、良いことはたくさん得ることができた。しかし、この研修は出身地つまり、両親の親せき等の家にいて行われるように企画されているようで、私のように、見知らぬ地へ行き、そこで1週間でも生活するということは金銭的な面も含めて大変困難であった。

このような不愉快な経験をしなくてもすむためにもこの出身地研修の目的を研修生の希望する研修をさせることなのか、両親の出身地を知るためのものなのかにはっきりと決めその上で行われた方が良いのではないかと思う。

研修旅行はどれを取り上げても、何らかの形で参考になり、日本をより良く知るためにはとても

良かったと思う。しかし、帰る間際つまり、3月に入ってからの旅行はいくら良い所へ行くにしても、次回からは研修生と話合ってから行われた方が良いだろうと思う。これはやはり、帰国間際になると、私達も何らかと忙しく、ましてや帰国準備のための日が1日だけであると、他の日のプログラムの合間に準備をしなくてはいけないため、旅行へ行ってもそれを充分に味わうことができなくなるからである。

こういった私達の意見、要望等も研修の終わる段階にだけではなく、定期的に聞いて頂けないものだろうか。そうすれば何らかの形で研修生活も研修内容も、実際に研修を受けている間に変化させより良い方向へと進めていけるのではないだろうか。

研修生活も終わり，この11か月間を振り返ってみると、つらい日々、苦しい日々もあったが、それに引き替え、暖かくはげましたり、支えたりして下さる方々、そして友人にも巡り合うこうとができた。このような体験をさせて下さった事業団そして関係者の方々には感謝の気持ちでいっぱいである。

ブラジル国サン・パウロ市
日文連日語教師
一甲真由美エジナ

1．当初、研修に期待したこと

1．日本語を外国人に教える場合の教授法を学ぶこと。
- 日本語を外国語として教えている学校の見学。
- 教材研究。

2．日本の伝統芸能を習得すること。

3．日本の社会、日本人の生活や習慣等を体験すること。

4．日本語のレベルアップ。
- 現在使われている日本語の知識を得ること。
- 言葉の発音、アクセント、文章のイントネーションの勉強。

5．日本の歴史的な場所を見学すること。
- 京都・奈良の見学
- 広島・長崎の見学

2、今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

1．こちらで教わった新しい日本語教授法を、現地の日本語の授業でさっそく生かしていただきたいと思います。

2．楽しい授業を計画し、生徒達に日本語に関して、もっと興味を持たせるようにしたいと思い

ます。

3、なるべく「新しい日本語」（今使われている言葉）を生徒達に教え、日本の現在の状態を知らせたい。

4、日本語を教えながら、日本人の習慣も少しずつ説明していきたいです。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1．センター内での講義について

・視聴覚教育の講義（青木先生、酒入先生達）の希望や意見を聞き、それに応じて研修の内容を考えていった方がよいと思います。その相談の時間も講義の時間以外にとっていただけたらありがたいです。

・茶道、華道、書道の時間を普通の講義の時間以内（午前9時～午後5時）に含めていただいてほしいです。講義の時間以外だと、研修生の人数が多くて、皆、静かに、集中してこの日本独特の文化を味わうことができないと思うからです。もし、どうしても講義の時間以内に行うことができなかった場合、研修生達（日本語教師と師弟研修生）を幾つかのグループにわかれさせて授業を行った方がいいと思います。

2．玉川大学での講義について

・長野先生の教授法の講義はとても参考になりました。特に、先生がブラジルへいらしてからのわずかな2回の講義は、私にとっては重要な講義でした。ですから、できれば先生方に対しては、なるべく外国で生活なさった先生方や外国人に授業をなさったことがある先生方の講義を行っていただければありがたいです。日本語を外国語として教えている私達にとっては、同じような経験のなさった先生方のアドバイスを聞くことは、ものすごくいい勉強になりました。

・視聴覚教育の講義（青木先生、酒入先生、中里先生）はとてもよかったので、今年の研修生達のスケジュールにも含めていただけたらよいと思います。

・日本の歴史や政治・経済の授業は、この分野が専門である先生に授業を行っていただきたかったです。

・野田先生の文法の講義（動詞のアスペクト・形容詞・形容動詞のアスペクト）はとてもよかったです。できれば、この講義の時間数をふやしてほしかったです。

・研修課と研修生達の間に、相談員になる日本語の先生を選び、講義について、研修生は、これからの本邦研修生の為に、指導をなさる先生方に南米へいらしていただいて、現地の日本語指導の状況を御覧になって、理解していただきたいと思います。

・瀬山先生の日本事情の講義は言うまでもなく素晴らしい講義でした。ですから、この講義の時間数をもっとふやしてもらいたかったです。

・日本語生活研究の講義と日本語教育概論の講義の内容は、その講義の目的にあてはまらなかったので私にとってはあまり役にたちませんでした。

・平山先生の日本語Ⅱ（漢字について）の講義は、残念ながら、センター内での「日本の文字」の講義の内容と重複してしまった部分がありました。このような問題がおこらないように、センターで講義なさった先生と玉川大学の先生との話し合いを行わなければならないと思います。

3．屋外研修について

外国人を対象として日本語を教えていらっしゃる学校（新宿日本語学校、東京外国語大学、学友会、ジャパン・インタナッショナル・スクル、名古屋大学）での授業参観はとてもいい参考になりました。特に、新宿日本語学校では、とても楽しい授業を拝見させていただきました。この学校で2週間ぐらいの授業参観ができればよいと思います。

4．研修旅行について

歴史のある所へ行かせていただいてとてもよかったです。しかし、研修の始まる時にどんな所へ旅行する予定かを知らせていただければ、私達も個人でその場所へ旅行したりしないで貴重な時間も無駄にしていなかったと思います。

5．自己研修の発表会について

教材研究ができ、いろいろな教授法を把握することができたので効果的であったと思います。このような発表会を、これからいらっしゃる研修生達も行うことができたらよいと思います。私にはいい経験になりました。

6．出身地研修について（及び日本での生活と所感）

私は出身地研修で熊本県の方へ行かせてもらいました。そこでは、日本の小学校の国語の授業を参観させていただきました。1週間の研修だったのでいろいろな授業を見ることができました。年末だったので学校の楽しみ集会と餅つきにも参加させていただき、とてもいい勉強になりました。

又、熊本で親戚のうちに泊まらせていただいたことは、初めて日本へ来た私にとっては、日本文化や日本人の日常生活を体験する為によかったです。

ブラジルで授業していて、教科書にいきなり「こたつ」とか「畳部屋」とか、日本でしか見れないものの名前が出てきていた時、写真や絵を見せながら説明していましたが、自分自身もまだ実際に見たこともなかったので、すごく不安な気持ちで説明していました。今回、親戚のうちでこたつを使わせていただき、いい体験をさせてもらいました。

お正月も体験させていただき、一生忘れられない、いい思い出になると思います。

しかし、日本の年中行事などを体験するだけが勉強になったのではなく、日本での毎日の生活、見ること、聞くこと、全てが私にとっては最高の日本語（日本文化）の勉強になりました。

教科書や辞典を読んで勉強することもあるが、見たり聞いたりして勉強することも忘れてはいけないと思います。ブラジルで、何回も日本についての説明を聞くよりも、日本へ来るチャンスがあれば、自分の目で見た方がもっと早く、日本に対しての知識を得ることができると思います。

（「百聞は一見に如かず」）。

一年間、日本で研修を受けさせていただき、いろいろな新しい経験を味わうことができました。ブラジルへ帰ったら、この研修で教わったことをさっそく生かし、楽しく授業ができるよう、精いっぱい頑張りたいと思います。

日本へ来るチャンスを与えてくださった国際協力事業団に心より感謝しています。

ブラジル国サン・パウロ市
日文連日語教師
松 原 美智枝

1．当初、研修に期待したこと

日本語教師としてわずか2年間成人に教え、経験はまだ浅いです。大学生時代から日本へ来る夢は持っていましたが、実際に日本語を教えはじめてから、日本で勉強する必要生を非常に感じました。まず、教える自信を持つため、自分の日本語のレベルアップをしたいと思い、読解、聴解、また音声も勉強したいと思っていました。最近日本での日本語ブームの話を聞き、日本で利用されている教授法に興味を持ち、いろいろな学校（外国人に日本語を教える学校）の授業参観しながら、使われている教材の研究もしたいと思っていました。ことばを勉強する時は、そのことばが使われている国の文化の知識もある程度必要です。ですから私たちも日本語を教えると同時に文化も伝えなくてはなりません。それがよく伝えられるためには一度日本で生活し、自分の身体でいろいろな習慣や行事を経験することが一番よいと思っていました。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

こうして日本で10カ月間研修できたことは日本語の勉強だけでなく、社会の勉強においてよい経験になりました。日本語を教える自信も少しでき、この研修で覚えたことをブラジルで使ってみたいと思います。

外国人が日本に来てすぐ日本語を覚えるのを見て、びっくりしました。環境というものはことばを覚える時にいかに大切であるかということが分かり、外国で日本語を教える難しさを感じました。ですからここで研究した教材や教授法もそのまま利用できないことに気がつきました。ブラジルへ帰って自分の生徒に一番適当なものを作る必要を感じました。そして将来には自分の日本語学校を開く夢を実現したいと思っています。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

私たち二世、三世の日語教師にとって、大変よい研修であり、たくさんの日本の習慣や行事を自

分の身体で経験することができました。自ら日本の家庭の中に入り、いろんなことについて質問して現代の日本人の考え方が分かるようになりました。

この研修にはたくさんよい点もありましたが、期待していた日本語のレベルアップはあまりありませんでした。私たちが日本語を勉強する時には国語のようでなく、日系人の日本語のレベルアップとして先生方に指導していただきたいです。

玉川大学に6カ月通い、その大学の学生たちと一度もディスカッションする機会がなかったのがとても残念です。

私たちの研修で実習の時間もあれば、よいと思います。

10カ月の研修は非常に短く感じ、たくさんの新しい経験を重ね、嬉しいよい思い出をブラジルへ持って帰ることができます。

両親より先に自分の先祖の国に来て、両親の気持ちが分かり、感動しました。日本へ来る前は自分を日本人と思い、けれども10カ月日本人の社会で生活しているうちに、日本人と日系人の考え方の違いを非常に感じ、ブラジルの日系人であることが分かりました。

日本に来て、初めて四季のうつり変わりを見、日本人と季節の深い関係を知り、ブラジル人と違って自然と共に生きていることが分かりました。

日本の文化や社会について、今まで理解できなかったことが明らかになり、このようなすばらしい機会を与えてくださった国際協力事業団の皆様に心から感謝を申しあげます。

ブラジル国ポルト・アレグレ市
アニブラ日語教師
福　岡　ソフィア

1．当初、研修に期待したこと

・日本語のレベルアップすること。
・日本の伝統風俗なるものを自分の身体で感じること。
・教育者として必要な基礎的な学習して少しは自信を持った指導が出来るようになること。
・研修を5月まで延長し、日本の会計士の仕事を体験しながら社会的な面での人間関係を知ること。（理解すること）

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

1．これからは、あまり日本語が分からないあるいはまったく分からない児童が多くなっていく傾向があるので、その児童には、研修で学んだ教授法を生かしながら無理させなく自然と日本語に興味を持たせるような指導をしていきたい。

2．ブラジルでも出来るだけ研究会や講習会などに参加し、日本語教育について勉強していきたい。

3．自分自身の日本語に対するレベルアップ。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

① 私はブラジルで日本語教師として4年間ほど自分でもあまり自信が無い日本語を教えさせていただきました。日本へ来ることになり、どのような研修、どれだけの日本語に対する知識を持っていなくてはいけないのか、研修生がどの国から何人来るのかブラジルから何人来るのかも分からず、1年コースと聞いて5月までの計画で来てしまいました。

日本での生活、南米の国々の方々とふれあう中で各国の文化そして日系社会の事情を知ることができた。これを契機にこれからもいろいろな経験を交換しあって行く道を広めたい。

日本人、特に私達と同年齢の方とあまり接する機会がなかった事は残念でした。

② 11カ月間の研修についてよかったこと。

1．玉川学園小学部の小宮先生が児童に対しての心のこもった授業風景を見るだけでもよかった。

2．玉川大学文化部の教授法の長野先生の講義で教育者として必要な認識、そして学習者を理解する上指導しなくてはいけないことが分かった。

3．玉川大学文化部の高橋先生の人生と教育についての講義は印象的でした。

4．幼稚部の高橋先生と本田先生、小宮先生、長野先生、教育原理の高橋先生方、児童や学生のことを話してくださった時の笑顔は本当に印象的だった。一生忘れてはいけないと思った。

5．屋外研修として日本で外国人に教えている学校を見学でき、さまざまな指導の仕方を見た。その中で最も良かったのは新宿日本語学校と名古屋大学でした。

6．研修旅行は日本の文化を理解するのに良かった。特に玉川大学の日本事情を教えてくださった瀬山先生と一緒に行った奈良、京都はためになりました。研修旅行が帰国前でなかったらもっと効果的だったと思う。

7．書道、茶道、華道は日本独特の文化を実際にすることができたのは良かったけれど、どの道も一人で出来るまでは行かなかったので残念でした。習う人数が多すぎて先生の指導が一人一人にいきわたらなかった。

8．ホームステイ、出身地研修ではセンターの中で体験できない日本の家族とのふれあいそして一家の家庭の中での日常生活を体験することができた。ホームステイでは日本の大きな年間行事の一つであるお盆を体験してとても良かった。

出身地研修で日本の小学校の雰囲気、先生方の活動を体験できた。

9．センターでの研修では、私達の相談にのってくれて、理解してくれた土井先生の授業は本当に良かった。

③ 研修で悪かったこと。

1．センターで受けた古沢先生の授業、日本人のための国語として良いかもしれませんけど私達の研修の目的には応じていなかった。

2．玉川大学の金平先生の日本語生活研究として数回あったけど何が目的の授業か分からなかった。おなじく日本語教育概論の正善先生も何が目的なのか分からなかった。そして一番ショックを受けたのは日本語学Ⅱの上原先生の講義でした。私達のことを「へんな人種」といわれたこと、そして親に注意される時にも聞いたことがない言葉遣いをされた。本も出していて多くの知識のある教授でしょうけど私にとっては日本の大和民族にしか思えなかった。でもしてはいけない指導法として得ることができた。

④ 今後の研修に対する

1．コーディネーターとし言語学の知識を持って、外国での経験がある方か外国人に教えたことのある方が必要だと思う。

2．玉川での授業にリトミックを入れて、小宮寺先生の音楽と永井先生の体育の時間を増やして欲しい。

3．センターで受けた授業で社会、歴史、政治経済に分けないで、一つにまとめた方が能率的だと思う。

4．日本語に対する知識は一人ひとり違うと思います。あまりアンバランスにならないように文法は基礎からできない方に特訓してほしい。文法的用語が分からなくて私も多少苦労しました。

5．最後に、見れないと思っていた桜も咲いてくれました。一人びとりの協力があり、私達をリードしてくれた肱岡さん、そしてこのチャンスをあたえてくれた国際協力事業団の皆々様心から感謝もうしあげます。

ブラジル国サン・パウロ市
市立中学教師
黒　田　恵　美

1．当初、研修に期待したこと

私は日本に来たのは今回が最初です。

日本で研修できるという通知をいただいたときはなかなか実感となりませんでしたが、たいへんなことになったなと思いました。

喜びよりも、代表者として選ばれたものの、良い研修をする能力を自分が持っているだろうかという不安の方が湧いてきたことを覚えています。

しかし、日本で現在話されている日本語を聞いたり、直接日本の文化や風土にふれたり、四季の移り変わりや、日本の社会や教育などを見ることができると思ったときは、うれしさと期待で胸が

いっぱいになりました。

先進国の一つである日本がどうして今の地位までに達することができたのかを知るためには、日本の教育の方針や社会の構成や動きなどを見る必要があると思っていましたので、まず、そちらの方に関心がありました。そして、正しい日本語の使い方、正しいアクセントや外国語としての日本語教授法を学ぶことと、日本の風土や歴史、日本の国民のものの考え方や感覚などを通して、本当の日本語を理解することが私の目的でした。単に日本語の教授法だけを学んでも、日本語を深く理解しないと、教えるときに自信がないだろうと思っていたからです。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

日本へ来て、先ず感じたことは、顔は同じ日本人なのに、私たち日系二世とは習慣や思考などに違う点がたくさんあるということです。それで慣れるまでずいぶん戸惑ってしまい、日本の方々にもいろいろ迷惑をかけただろうと思います。

そして、ブラジルで思っていたよりも、日本語は難しいということを改めて認識しました。

日本人独特の感覚で一つの言葉が言い方によって、微妙に異なるということにいつもおどろかされました。

日本に来た当時は日本の人々の話し方、動作、風習などをいやだなと感じることもありました。

全体的に見て、日本の人々はあいさつや話し方は敬語などを使ってずいぶん相手をたてるところがあるのに、いつも一つのへだたりを置いていて、たてまえだけで、心から話をしていない、話し方に熱がこもっていないと感じていたからです。

しかし、いろいろな所で研修や見学を重ねていき、日本の社会や文化、歴史などに実際にふれて行くうちに、それらの根底から成り立っている日本人の感覚を少しながら理解することができて、日がたつにつれて、あまりいやだとは思わなくなりました。

一見つめたいように、いばっているように見える人々も深く見つめていると、人に迷惑をかけないように気を配りながら、おとなしく、仕事や制度に忠実に生活しているのだなと感じました。みんなで同じことをしようという考えや、一つの組織のために一生懸命働こうという考えが今日の日本の進んだ社会を作りあげているのだろうと思いました。

いろいろな学校で見学や研修をしたり、ホーム・ステイや出身地研修、鎌倉、奈良、京都、高松、松山や広島や伊豆などへ研修旅行に行かせていただいたことは、日本の風土、文化、国民性などを理解するのに良い機会だと思っていましたが、四国・広島や伊豆への旅行は研修の終る頃に行われたことは残念でした。

日本語の能力を高めるための講義や教授法の勉強を玉川大学で受けることができて本当に良かったと思っています。もちろん先生方の全員が良い授業を行われたとは思いませんでしたが、玉川学園の教育の方針にふれ、理解することができたのは教師という仕事についている者にとってたいへ

んプラスになったと思います。もちろん、ブラジルへ帰って、研修したことぜんぶを利用することはできないと思いますが、いろいろヒントを得たので、くふうをして、応用することはできると思います。

センター内に授業を行いに来ていただいた先生方の中では特に永保君恵先生、土井真美先生や丸山先生、石井先生、酒入先生たちに熱のこもった良い講義をしていただいたことを心から感謝しています。それから、土井先生の授業で計画された教材作成研究もとても良い経験になったと思っています。

外国語として日本語を教える教授法を学ぶことで一番良かったのは新宿日本語学校と名古屋大学で水谷修先生や土岐先生について研修をしたことです。

南アメリカのさまざまな国から来ている日系二世の方たちと意見を交換しながら勉強できたことと、ちょっと変わった考え方を持つ、開発青年たちと知りあえたことも良い思い出になりました。

私はブラジルへ帰って、こちらでのさまざまな経験をできるかぎり生かしたいと思います。日系三、四世、あるいは非日系ブラジル人に日本語を教えるだけでなく、そのバックにある日本の文化や考え方、それらから成り立っている日本の社会などを、私ができる範囲で紹介していきたいと思っています。そして、ブラジルの人たちが日本を知りたい、理解したいと思うようになってほしいと願っています。そして、そのためには日本語の教授法や教材などの研修に力を入れなくてはならないと思いました。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

一人一人が良い研修をするためには、研修の目的を最初から明確にしなければならないと思います。

日本語能力のレベルに大きな違いがあるときは、各レベルに合わせた授業の計画が立てられなければいけないと思います。

日本語を話せる日系人の大部分は家庭の中で覚えたので、文法的なことは知らない人が多いため、センター内での授業計画の中には最初から基本的な文法の授業を設定してほしいと思います。

文法や教授法の授業をふやし、それらの授業をもっと有意義にするために、実習の機会を作るといいと思います。

センター内で日本の歴史や社会の勉強を多くするより、日本語教師を養成する学校に入って研修をした方が効果的ではないかと思います。歴史の授業ももちろん大切ですが、10カ月の研修を考えると、時代の流れのポイントに視点をおいた、そしてもっとビデオやスライドなどを使った興味深い授業を行っていただきたいと思います。

さらに、いつも日本での教育や文化活動などの情報を与えてくれる先生（たとえば土井先生がやってくださったように）が一人いた方が良いと思います。そして、月に一回ぐらいは会議をして研

修生一人一人の問題、またそれらの解決法などをディスカッションする時間を設けたら良いと思います。

長いと思っていた10カ月の研修もあっというまに過ぎてしまい、あれも、これもすればよかったなどと考えていますが、ずいぶんさまざまなことを経験したと思っています。

そして、こういうすばらしい機会を与えてくださった国際協力事業団の皆様と、お世話になった方々に心から感謝いたします。

ブラジル国サン・パウロ市
日文連日語部教師
立　山　小百合

1．当初、研修に期待したこと

a．日本語を子供たちに楽しく、正しく教える方法を学ぶこと。

b．日本語のレベルアップ（会話と漢字）

c．日本の四季の移り変わりを実際に見、肌で感じること。

d．日本で日本人としての生活をすること。

e．日本の歴史的な所を実際に見ること。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

a．去年、センター内と玉川学園で行った授業を参考にして、ブラジルで授業をしたいと思います。

b．1年中で学ぶことをヒントとして、実際に教材を作成し、ブラジルでその教材を使って授業を行わせたいと思います。

c．日本で経験できた社会、生活をできるだけほかの人へつたえたいと思います。

d．日本での研修をスタートとしてブラジルで勉強会をして続けたいと思います。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

a．寝室に関して

二人で寝室を分けたことはとても良かったと思います。気分がよくない時や勉強の時間にもとても便利でした。

b．栄養に関して

南アメリカから来ている私たちには、日本の食事に慣れるのには、かなりの時間が必要でした。

私たちは、肉の料理には慣れていますが、それと同時に、肉を食べた分にプラスできるくらいの野菜も摂取していました。

日本では（センターの場合）豚肉は多く出ていて初めはよかったのですが、それに対しての野菜や果物が少なくて、あまりバランスの取れた食事ではありませんでした。

c．改修工事に関して

工事を行うのなら、プログラムを、私たちのいない時に行えるようにつくっておいてほしいと思います。できれば予定してあった期日どおりに終わってほしいと思います。

d．旅行に関して

私たちがセンターについた時点でいついつに何を行うというプログラムを作成しておいてほしいと思いました。

旅行中にかかる諸経費についてはセンターがもつか私たちがもつのかをはっきりさせておいてほしいと思います。それに合わせて私たちも使用する金額を調せいして旅行へ行きたいと思っています。

又旅行の目的や行動については行く事前にはっきりしてほしいと思います。旅行の責任者となる方は事前に（行く場所）を調査をしておくとむだな時間をつかわないと思います。

e．センターで行える授業に関して

センターで行われる授業のカリキュラムを各クラスごとの先生から集めて、玉川学園に提出しておいて、今月はこんな授業の予定だと報告をしておいて、センターと玉川学園の授業内容が同じにならないようにしていただきたいと思います。

又、小テストでも必要だと思います。授業の価値を再認識するとともに、日本語のレベルアップにもなるのではと思います。

f．玉川学園で行える授業に関して

玉川学園の先生方はとてもよくしてくださいましたが、私たちは外国人だということをはっきり把握しておいてほしいと思います。

ある先生では、私たちに「外国の言葉は覚えなくてもいい。」とか言ってまるで私たちをバカにしている態度が見られました。（非常に悲しいことです。）次にくる人たちのためにも私の方から、本当にお願いしたいと思って書きました。

g．書道、茶道と生花に関して

書道、茶道、生花が私たちの授業のカリキュラムの中に組まれているならば、夜ではなくできれば授業時間中に含めてほしいと思います。

夜に行った時は、人数が多すぎて、一つ一つのポイントをうまく自分のものにすることができなかったと思いました。

h．自己研修に関して

自分たちの研修のテーマやいろいろな勉強をするのにも自己研修があったことはよかったと思いました。

ｉ．出身地研修に行けたことで両親の育った所を知ることができ、又私の場合は友だちの家へ行ったことはとてもよかったと思いました。さくら幼稚園を見学したことによって自分の感性に多くの物をプラスすることができ、とても大切な時間をすごすことができたと思いました。

ｊ．日本で見学できた学校に関して

私の場合は子供の学校を見学したいと思っていました。けれども成人のための日本語学校を見学したことも勉強になったと思いました。

新宿日本語学校と名古屋大学は最高だったと思います。いろいろをヒントとしてブラジルでの日本語の時間に必要ではないかと思います。

本当に日本で国際協力事業団のおかげさまで研修をさせていただいたことを心から感謝いたします。

ブラジルへ帰って日本語教師として日本で経験したことや勉強を生かして、ブラジルの人々に日本の言葉や文化を紹介したいと思います。

どうもありがとうございました。

ブラジル国バイア州
南米銀行サルバドール支店
（日語学校補助）
井関　泉

１．当初、研修に期待したこと

１．日本語のレベルアップをするため

２．子供達が日本語に興味を持つためのメソードを学ぶこと

３．日本人の日常生活を体験してみること

２．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

玉川大学で学んだ事がどこまで応用出来るか実際に帰国して教えないと分かりませんが…

リトミック、音楽、リズム、手遊びを多く取り入れ、自然に日本語に親しんで行く“フンイキ”の中で授業を進めたい。

３月16日、日本語教師本邦研修生11名そろって、センターで、自己研修研究を発表しました。私の場合はこのとおりでした。

生徒の特徴－日本語は分かるが、話せない

年齢－３才～７才

生徒数－20名

1．作成意図

できるだけやさしく
楽しく
遊びの中で
} 学習できるように、

基礎的な会話が身につくように。

2．使用方法、目的

無理なく理解できるように

楽しいフンイキの中で学習できるために、よろこんで学べるようにしたい。

3．指導法

教授用具－絵カード、字カード、ＯＨＰなどを使用して楽しく遊びながら反復練習ができるようになります。

口頭練習－質問に答えるだけではなく、向かう練習も充分にします。できるだけ多くの場面の中でくりかえし学習させます。

○　ひとつの音でできている単語－ＯＨＰ

言葉の音節とその音を表す文字に関心を持たせるおけいこです。

は－「は」という文字（音）は、「葉」という意味を持つ言葉であること、また、「歯」など、別の意味も表すことを教えてあげます。

○　絵合わせカード

生徒が、絵や事物と合わせながら文字をだんだんと覚えていくように、つまり、文字と絵や事物を合わせて覚え、さらに進んで文字だけで理解し、読めるために。そしてゲームも出来ます。

○　絵かきなぞなぞ－ＯＨＰ

「なぞなぞ」は、昔からある言葉遊びであります。それについて出て来る大切な言葉をさがすように、注意させます。

○　顔の名前をいいましょう－絵カード

子供達全員の目や気持ちを教師へ集中させてゲームします。

○　反対語－絵カード－ＯＨＰ

反対言葉は、二つの言葉の意味を比べるので、同時に二つの言葉が理解できます。

反対言葉を理解させながら、文字も書かせます。言葉は、たくさん知っていればよいというものだけではありません。たとえば、短い長い、という具合に、関係づけて覚えることが大切です。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

移住センターで、日本語の授業を受けながら、玉川大学へ通い、いろいろな先生達から教えていただきました。おなじく南米から来た研修生ですが、日本に来て、はじめて会った人達で、その間、一緒にねおきしての講習はおたがいが友達になるためにも、友好だと思っています。日本語の学習を始めまして、10カ月になりました。普通はただ両親だけと話していました。両親が言うことは大体わかりますが、私が言いたいことや答えたいことは半分も言えませんでした。日本へ研修に決まった時、一番よろこんでくれたのは、両親です。しかし、ただ両親と話せるようになるために日本語を習っているのではありません。日本語が話せたり、書けたり、読めたりすると、そして日本の文化を子供達に伝えたいからです。そして、親からいろいろと日本のことを話してもらい、日本に来て見てやっと信じられる事がたくさんありました。いろいろな所に見学に出かけ、旅行をして、日本の日常生活を体験したのは、一生忘れられないことです。センターでの授業、あるいは玉川大学で学んだ日本語教授法は私にとってはとても大切でした。

教師として経験ありません。仕事は、本当に大変な事であると心から感じ、自分がこれまで日本の事は何も知らなくて、ハズカシイと思いました。

今まで習ったことがどこまで実行出来るか、実際に帰国して教えないとわかりませんが、先生方からいただいた指導で身につけた音楽、リクリェーション等は、それぞれ子供達に伝えたい。

私が日本語が上手になるのはまだまだ時間がかかると思いますが、希望者多数の中より選ばれた研修生として一同自分の目的に向かって進みたい。

最後になりましたが、皆様へご迷惑おかけしたことは、本当にすみませんでした。とにかく、私にとってはすばらしい研修で、良い経験になりましたし、お世話くださった先生方、センターの皆様どうもありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

パラグアイ国エンカルナシオン市
エンカルナシオン日語学校助手
熊 谷 智 美

1．当初、研修に期待したこと

1．自分自身の日本語の知識を高める。

2．日本の文化や伝統的なものを見たり聞いたりして歴史などを理解したい。

3．現在の「日本」を知り、日本人と接触して、現在の日常生活、習慣、言語活動や日本的心情等を理解したい。

4．専門的な日本語の指導法を学び、子供たちの日本語への関心を高めたい。

(1) 児童心理について学びたい。

(2) 日本語を教えるためには現在どのような教材があり、またその教材をどのようにして使えば良いのかを学びたい。

(3) 漢字をどのようにして教えれば楽しく効果的にできるだろうか、を教えてもらいたい。

(4) ゲームやリズム遊び等を学びたい。

5. 日本の小学校や幼稚園を見学して、学生たちと接し、日本の学校ではどのようにして授業を進めているかを知りたい。

2. 今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

1. 自分が生徒の立場に立ち、子供の心や気持等を理解しながら授業を進めたい。

2. 新しい教材を使ったり、あるいは自己研修発表会の時に発表された他の先生方のアイディアをヒントとして、工夫しながら自分で自分の教材を作っていきたい。

3. 現在の日本という国のことを伝えたい。

4. 日本ではもう使われていない言葉や新しい言葉「外来語」等をもっと使い、この言葉は日本の言葉として使われていることを教えたい。例えば、以前は「ちょうめん」と言っていましたが、日本では今大多数の人々がこの名詞のことを「ノート」と言っています。

5. 音楽や折り紙を取り入れたりして、日系二、三世の子供たちに少しでも多く日本の文化を伝えたい。

6. 劇や朗読などもやっていきたいと思っています。

このようにして、この研修期間で学んだことを台にして、生徒たちが日本語に興味を持って楽しく学べるような授業を進めたいと思っています。

たくさんの先生方の指導を受けて、新しい技術が身についた今は、これを現地で生かしていき、教育者として全力を尽くしたい。

これからも同じ仲間の先生方とも相談し合える機会もありますので心強いと思っています。

3. 今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

この研修期間は長いようで短かった。振り返ってみれば楽しかったこともありましたが辛かったこともたくさんありました。

前期の3ケ月間センターでの授業は多少だぶった授業もありました。私たちの滞在期間は非常に短いので、同じことを何度もくり返していては時間が惜しいのではないのでしょうか。

玉川大学の学校劇夏期大学へ参加させていただき、劇というものがおもしろいことがわかり、とても良かったと思っています。

夏に行ったホームステイは私にとっては、あまりよくない経験でした。お盆の行事等は全く知りませんでしたので、ホームステイの時、その行事を見せていただく予定でしたが他のことをやり、

お盆の行事はぜんぜん見ないまま帰って来ました。このような行事を経験するのが目的であったら、親せきの家で行った方が効果的だと思います。

新宿日本語学校では、とても良い勉強になりました。

名古屋で明治村と名古屋大学等を見学させていただいたことは、とても良かったと思いました。名大ではプロの先生方との話し合いはとても参考になりました。

2ケ月間玉川大学の授業では、たくさんのことを学びました。学生たちと接するチャンスでしたけれども、できなかったことが残念でした。

12月の出身地研修は、私にとってはとても良い経験でした。

1、2月のセンターでの授業は良いと思いますけれども、3月に入ると自己研修発表、旅行、いろいろな所を見学等で非常に忙しくてレポートや帰国準備等をするには大変でした。このようなことがないように、旅行や見学などは最後になってからではなく、もっと前にやって欲しかったと思いました。

このコースはとても良いので、これからもずっと続けて欲しいです。

ＪＩＣＡの皆様、長い間大変お世話になりました。

アルゼンティン国ポサーダス市
ポサーダス日語学校教師
辻　　ロサ

1、当初、研修に期待したこと

1．日本語の能力をできるだけ向上すること。私は日本語学校も殆ど通っていません。家庭内で使用される日本語しか、知らなかったので一個人の先生として基礎的な知識を身に付けたいと思っていました。

2．日本の各地を旅行して、そこの良さ、悪さを確かめ、祖国をより大きく理解できるようになること。

3．これから教える二世、三世の子供たちに伝えるために、第二の故郷でもあるこの国とその人たちのことをあらゆる面で知ること。

4．低学年の児童にとって、どのような教授法が一番適切であるかを研究することなどを期待しておりました。

2、今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

日本に来て初めていろいろな先生方の教え方を拝見させて頂いて、如何にも、今までの自分の教え方があまかったかに気付かせて頂きました。

特に、センターに二回ほど来て下さった石井先生のレクリェーションの講義は私にとってとても感動的でした。

先生の教え方には、すべてを惜しみなく学ぶ者に対する深い愛情が感じられました。又、玉川大学の長野先生が、教授法、その中でも指導案の作成を厳密に教えて下さったことは良い勉強になりました。

1年間、私が教えた学校では、まだあまり日本語教育に力を入れていません。雨がふれば休校になり、暑くなれば、授業はなしというような状態なので子供たちも、勉強に身が入らないといった感じでした。

当センター、玉川大学で学んだたくさんの経験の中で、やはり子供たちには、楽しい授業が一番効果的であって、又、目的付けられるとも思われました。

私は自分なりに、どのような方法で教えるかを改めて、じっくり研究し、教材もいろいろ工夫したいと思っております。

ただ頭の中に知識を詰め込むだけではなく、玉川大学の教育原理のような知識、精神、体を共に成長させる、いわゆる"全人教育"が理想であり、これを基礎にした教授法の研究をするつもりです。

現在、ポサーダスでは、日本語を教える先生が少ないのも問題ですので、二世の方たちが活躍してくれるために努力もしてみたいと思っています。

これからも自分自身の日本語力を高めるために、そしてこの研修で学んだことを忘れないために勉強を続けます。

ただ、近くに日本語を教えてくれる大学がないことや、日本人と接する機会がとても少ないことが残念です。

この本邦研修に参加させて頂いたことは私にとってとても貴重な経験でした。センターに来て下さった先生方の中には、外国に行ったり、滞在なさってた方が何人かいらっしゃいましたが、私たち外国人にとって、講義やお話が大変理解しやすかったことが分かりました。

私は、日本語の先生である前に祖国をもっと深く見つめ、アルゼンチン人として自分自身を知ることが生徒を理解できる第一の条件であり、良い教師になるための第一歩ではないかと思います。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

この研修制度はとても有意義でした。特に私のような未熟な先生にとっては必要だと思います。

センターでの団体生活も初めての経験でしたが、同じ南米から来ている皆さんと共に過ごせたことは心強く、日本で一人きりというような寂しさは感じられませんでした。その点では満足しております。

私たちには研修課の方からスケジュールが渡されますが、もう少しまとまった、年間を通しての

スケジュールを初期のうちに教えて頂ければ、個人のスケジュールとダブッたり、同じ内容の講義を何回も受けることを避けることができると思います。

今回、私たちＢコースの中でレベルの差があり、知っている人たちに大変迷惑を掛けてしまったことを申し訳ないと思っています。もしＪＩＣＡの方である期間、漢字を書けない者だけに玉川大学の平山先生のような講師を付けて下さったらうれしいです。

８月のホームステイは、私たちが日本人と接する最初の機会でした。お盆の行事を直に経験し、他人の家庭に入り、いろいろお話を伺い、その時初めて日本に来た実感がわきました。このような機会がもう一度くらいほしかったです。

私たちの研修のために講義をして下さった先生方の中には、すばらしい先生方もいらっしゃいましたが、私たちにとっては無意味な、プラスにならないような授業しかしなかった先生がいました。

私たちは、日本でできるだけたくさん現地で役立つもの会得して帰りたいので時間のむだになるような授業は省くことをお願いします。

去年の９月から12月の期間Ａコースの先生方と玉川大学に通い、同じ授業も受けましたがなぜか意見が合いません。それに私生活の点でも不愉快な思いをしたのは私一人ではありません。

12月の出身地研修は、日本の小学生と直に触れ合い職員室の中での動きなど日本の小学校の真の姿を見せて頂いた思いでした。

たくさんの要望を書いてしまいましたが、この研修制度でこれから私たちの後につづく後輩のためにより良い御指導ができることを願っております。

最後にこの研修のために協力して下さった学校、そしてＪＩＣＡの皆様の努力に心から感謝の気持ちを申し上げます。

アルゼンティン国ブエノス・アイレス州
モロン市日語学校教師
中津海　マルタ　クリスティーナ

１．当初、研修に期待したこと

- 現在の日本語教授法を学び、色々なメッソードの中でどれが亜国で適切に使えるか研究すること。
- 現在、日本での教育方針を調査し、亜国と比較すること。
- 教材研究をすること。
- 外国人むきの日本語学校を見学すること。
- 日本文化の現状を取り入れること。
- 日本語能力のレベルアップ

⑴　表現力（会話、文章）

(2) 文法

(3) 語彙

(4) 発音

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

- このコースは私たちにとって適応しなかった点もあったけれど、プラスの点から取り入れた色々な情報をできるだけ亜国で発揮してみたい。
- さまざまな先生方から教わった指導方法（おもに直接法）を選択し、亜国で利用したい。
- 亜国にあてはまる教材研究をつづけたい。
- 帰国後、日本語教師とではなく自分自身のためにもっと日本語を学ぶチャンスをつくりたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

第3回二世日本語教師本邦研修生として夢と希望に包まれ、日本の土を踏んでからもう10カ月過ぎてしまいました。この長いようで短かった期間を振り返って見ると数えきれないほど思い出がいっぱいです。

中には悲しかった事や辛かった事も多かったけれどすべての面で豊富な経験をしたと思います。

まず、日本人という国民を通して日本文化とふれあえたことが幸いだと思います。外国人のように、自然といつも対決している立場ではなく、つねに自然へのとけこみが見られ、この調和によって日本人の芸術心が生まれたことがなんとなくつかむことができたと思います。その反面、なぜ日本人は本音と建前の差があまりに大きいか今でも疑問に持っています。たぶん性格的な問題ではなく、日本文化が発生されてから今までずっと続いてきているのではないでしょうか。海にかこまれていることから二つの顔を持つ日本、一つはオープン、もう一つはクローズの意味。内と外を上手に使ってきたことから日本人という国民が生まれたと言えるでしょうか。

すなわち、私たち、南米人が見習わなければならない共動的な性格が生まれたとも言えるでしょう。

ところで、研修の専門的な分野に入ると、このコースがスタートしてから3年しかたってないため色々な面で不満を感じました。特に私たちのスケジュールを組立てる「経験」のある担当者が必要だと思いました。

経験に対しての条件

(1) 日本語教育に関して深い知識を持っている人。

(2) 現地の事情が分かる人。

(3) 精神的に一人々々の事情が理解できる人。

この10カ月間を通して受けた授業の内容についてはすべてが良かったとは限りません。

中には私たちの目的にあてはまっていない内容がありました。かなり絶望した面もあり、講義を受ける気にもならなかった時がいくどかありました。

結果的にマイナスになった授業

(1) F先生が担当した読解の授業（センター内）。バリエーションがなく、教師として深い知識の持ち主だが、その知識を少しでも私たちに伝える技術があったとしたらより効果的になったと思う。

(2) U先生が担当した日本語学Ⅲ（玉川大学内）。教師自身と色々な考え方の上で対照的な差があり、思わしくない授業であった。

(3) K先生が担当した日本語生活研究の授業（玉川大学内）。根本的に期待はずれた授業であった。

(4) S先生が担当した日本語教育概論（玉川大学内）。内容がまとまってなく、この課目の目的にあてはまってなかった。

マイナスな点を後にして、有意義な授業を受けられたことは大切にしたいと思います。

玉大の高橋先生から教わった教師としての豊かさ。

玉大の長野先生の教師として情熱さ、または、完ぺきといわれてもいい指導技術。

笑顔を絶やさず、一人々々の子どもを大事にし、教壇に立つ玉大小学部の小宮路先生の教師としての姿勢。

そして、この10カ月間、私たちのセンターでの授業のコーディネーターとして活躍していただいた土井先生。

それぞれに教師としてすばらしい特長が見られ、この先生方の御指導を受けたことによって、重大な責任を感じ、できる限り教わった事を現地で生かしていきたいと思っています。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・玉大での授業

(1) 今年は夏期スクーリングがなかったためリトミックの授業に参観できませんでした。玉大を代表する身体表現教育が見られなかったのは本当に残念だったと思います。

今後からぜひ、この授業だけはスケジュールに入れていただきたいと思います。

(2) 音楽と体育の授業を増やしていただきたいと思います。

(3) 次にのべます授業はたいへん参考になりましたので続けさせていただきたいと思います。

・長野先生の教授法

・高橋先生の玉川教育概論Ⅱ

・瀬山先生の日本事情

・大竹先生の言語学習心理学

・平山先生の日本語学Ⅰ

(4) 幼稚部と小学部の授業演習の回数を増やしていただけたら良いと思います。

・センターでの授業

(1) 一般教育の授業（社会、歴史、政治、経済）の回数を減らし、言語としての日本語の授業（聴解、文法、読解、教授法）を増していただきたいと思います。

・屋外研修について

(1) 外国人むきの日本語学校の授業参観を週1回程度にしていただけたら良いと思います。

(2) 出身地研修の制度は続けていただきたいと思います。

(3) 名古屋大学と新宿日本語学校での研修を増していただきたいと思います。

・その他

(1) ただ知識をストックするだけではなく、この知識を教師としてどのようにして伝えたらよいかが大切だと思います。これを実現するためには教育実習をするしかないと思います。先生方から批評され少しでも教師として自信がついてくるのではないでしょうか。

ペルー国リマ市
いちご文化協会日語教師
星　　クラーラ

1．当初、研修に期待したこと

1．日本語のレベルアップ

・常用漢字を習得すること。

・文章表現力を高めること。

・会話を場合によって適切に話しこなせること。

2．日本語教授法

・教育について一般の原理、技術。

・教材研究（リマで何を、どのように扱ったらいいのか）

・四技能のバランス（読む、書く、聞く、話す）をどのように指導していくか。
副教材の扱い方やジェスチュア、絵などをどのように教室内で利用できるか。

3．日本の文化、日本人とのふれあい

・日本人との接触を通して日常生活のこと、一年行事とそこから関連してくる文化、歴史、現在の日本人の考え方を得ること。

4．上の三つを通して自分の日本語力と教えていく日本語に少しでも自信を持てること。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

1．日本語力だけではなく、教授法を生かし、そのテクニックを扱いながら、能率、高率的な教え方をしていきたい。（カリキュラムを生かした、目的をはっきりした日本語の教え方）。

2．経済的に可能であれば、日本語教師を専業としたい。そのためには、日本での研修をベースとして、教師としての言語比較研究、教授法の研究や文化研究を続けていきたい。

3．今ではまだ少ないリマでの研究会、勉強会やセミナーに参加し、教師としてのレベルアップを続けたい。

4．幼児教育には性格的にむいていないが、できれば、その研究会等に参加したい。

5．ペルーの日系人社会の歴史は現在の日本語教育にまだ大きい影響を与えているので、その歴史の研究をし、今からの日系人のあり方、日系人への日本語はどの傾向ととるか、考えていきたい。

6．日系社会だけではなく、一般に日本語を通して現代日本のイメージをどのように紹介していけばいいのかを考えていきたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1．屋外日本語研修について

週1回の屋外日本語研修の大部分は見学だけであったが、成人に教えなくてはいけない研修生には二度とないいいチャンスであった。できれば、見学だけではなく、その学校の教授法などについて本格的な講義を受けることができていればなおレベル高い研修になっていなかったかと思う。

新宿日本語学校と名古屋大学の言語センターで行った研修では今日本で行われている日本語教育の傾向をみることができた。ハイレベルの講義を江副先生、水谷先生、土岐先生から教わることができ、研修の満足感をかんじた。

屋外日本語研修はいつまでも続けてほしいが、成人に教えなくてはいけない研修生と児童に教えなくてはいけない研修生がいるので、それにあった方を見学できればいい。一つのグループだからとはいえ、同じことを全員でしなければならないとは限らない。一人一人が自分に一番能率的な研修を受けることができれば、それが理想的である。

2．一学期について

5月から8月までセンターで行った研修の目標は、私たちの日本語のレベルアップ、日本の歴史、社会、政治、経済の文化的背景を学ばせることであったみたい。日本へ来る前からＪＩＣＡでの研修ははっきり何かとわからなく、何をどのように期待したらいいか見当もつかなかったが、はじめて日程表を見たときよさそうにみえた。ところが、授業がはじまった2～3週間目には日本語のレベルアップにはなっていないと気づいてきた。何人かの講師は私たちのレベルやバックグランドをわからず、関係なく講義をやった。

ひとりひとりの日本語力はちがったが、人数も少ないので調整できることであった。ＪＩＣＡのEducational Directionとして、各講師、またはＪＩＣＡ&講師全体で、研修生一人一人の調査、診断（accurate educational diagnosis）をし、共同授業であっても、ひとりひとりのレベルと必要性にあった個人指導ができたはずだ。

歴史、社会、政治、経済の知識はだれにでも必要だが、「中学校」らしい授業や内容ではなく、新しいインフォーメーション&ディスカッションが望ましい。

3．玉川大学での授業について

9月から11月までの集中講座は効果的であった。特に高橋先生、長野先生や平山先生の講義からは教育を向かう大きな「ヒント」を得た。季節的にも最高な時で、南アメリカではあまり感じられない秋を毎日通う玉川で経験できた。

その他、週1回大学へ通う生活はよかったが、目標の大学生との交流はできなかった。2～3人にわけて、ちがった科目へ行かせたり、大学側から大学生活や他の学生を紹介してくれる「チューター」式の3、4年生の学生をめいめいに指名してくれれば、後はスムーズに交流ができるのではないかと思う。

4．三学期について

日本語のレベルアップと同じように私たちにはもっとも重要な日本語教授法は三学期になってやっと勉強できた。これを一学期から学んでいたら、自己研修での個人の研究、屋外研修のとらえ方ももっと意識的ではなかったであろうか。しかし、この教授法は成人コース向きであったため、玉川大学では児童向き教育にかかわらず、児童に教えなくてはいけない研修生たちには不公平であったのではないかと思った。教材研究は教師にとって必要なものである。これももっとはやくから取り入れてほしかった。

三学期からは自己研修の日を一週間に一回取り入れてもらった。これは室内だけではなく、本屋へ行ったり、息抜きのつもりで近くの森林公園や三谷園へ出かけていくこともできたので、三学期の帰国前に受けるプレッシャーでストレスがちになりそうな時期も、いくらか安らかにすごせた。

5．書道、華道、茶道について

この三つの「道」を経験すことによって日本文化の一面とふれあうことができたが、どちらもじっくり身につける時間の余裕がなく、残念だった。一学期からいずれ一つを選ばせ、それに一年間の時間をかけさせ、念入りさせられていたほうが、一つの「道」に取り組んだといえる自信がでたのではないかと思う。

6．出身地研修、研修旅行、ホームステイについて

海外移住センターや横浜で出合うことができなかった日本の裏面を体験できた。この形でつかみ取った日本のイメージは、大いに日本語教師として生かしていける。また私たちと日本のかか

わりはそれらにもとづいて深くなっていくように感じる。

7．グループのチームワークについて

どのグループにもありえるトラブルは何度かあったが、一つの目的に向かうグループの認識をうしなわず、個性を尊重しようとしたひとりひとりの協力で乗り越えることができた。またグループをリードしてくれた肱岡さんがあれこれと配慮をくばってくれたこともある。

4．その他

A．日本語能力検定試験について

財団法人日本国際教育協および国際交流基金が日本語を学習する外国人を対象として日本語力を測定するために実施している試験をＪＩＣＡの研修課が認めてくれなかったのは非常に残念に思う。日本語教師になるにはまず日本語力が認められなくてはいけない。それを試すこれしかないものをＪＩＣＡからやらせてもらえなかったのは、今でも心残りだ。

B．センターについて

西洋文化の中で育った私たち

「プライバシー」はもっとも重要視すべきものだと教えられてきた。その考えからの私たちの行動とセンター内の私たちからみれば「authority」にしかとれない方式が衝突しあったこの一年間は「ＣＯＮＳＴＡＮＴ　ＳＴＲＥＳＳ」のもとであった。グループの大部分が一日もはやくセンターを出て帰国したいという気持ちを引き起こした一つの原因ではないかと思う。

C．研修のプラスやマイナスの結果にかかわらず、一年間日本滞在ができ、新しいことを体験できたのは国際協力事業団のおかげである。これらをベースにし、多いに利用していきたいと思う。

研 修 日 誌

9月26日　金曜日　晴　　　久保谷　信治

私はカナダから一人で来たので、ほかの先生達より少し早くセンターに入る。

心配していた蒸し暑さが無かったので安心する。'84年度の日誌を読んでいたので心配していたが、これもＪＩＣＡの皆様のおかげです。感謝

6時半にほかの先生達の到着、話によれば1時半に成田に着いて、税関を出たのが3時半ごろ、そしてやっと到着。

南アメリカから30時間の空のたび、本当にご苦労様、カナダからは、8時間。

夕食の味そ汁はおいしかった。

9月27日　土曜日　　　吉田　オラシオ

飛行機内でたて続けに食べたせいか腹具合がおかしくて、その上、気分がすぐれず、元気がなくなった。

今晩はぐっすり睡眠をとるようにしたいと思いつつ床に着いたが、なかなかねつかれず、眠たい一心で、家のことを考えてみたり、これからの日本での事を頭の中に描きながら、窓の外の建物の灯を見つめているうちにいつしか眠っていたらしいが、夜中にスピーカーから、時報が鳴りだして目が覚めた。

何かしら、神経が過敏になって、その音が、すごく、心にぎくっと、ひびきわたった。それから、ずっと朝まで、目がふさがってくれなっかった。

午前10時頃会議室で事業団の役人から、諸注意、説明等があった。

現地に於いても、日本に於いても、事業団の役人方の親切なことに本当に恐れ入った。感謝に堪えない。

今日土曜日なので銀行が閉まる前に研修生に対する経費が支給され預金通帳が手渡された。

日本の物価の高い事にびっくりし、何だか、支給された金額では心細いような感じがして、現地で無理して集めて持参したお金が、私を慰めてくれた。

今晩こそ、ぐっすり安眠出来るように。

9月29日　月曜日　小雨後曇り　　　鍋　山　儀　典

台風17号の影響で小雨。傘を借りて0955センター出発。品川で乗りかえ新宿へ。西口を歩いて三井ビル着1130。45階第6会議室にて顔合わせ。各自自己紹介。

54階にて会食。外は風雨で景色はさっぱり。1400事業団を辞し、新宿駅にもどり、町田ー玉川学園前の定期を購入（2,000円）、そこより歩いて東口へ出る。案内役のぼけにより（何をかくそう、こ

の私）多少行き過ぎてしまう。ヨドバシカメラでショッピング、夜は、書道教室見学。そして打ち合わせ。来週の月曜日より始まる。

さて明日は、いよいよ玉川へ。私事を言えば、14年ぶりの講義。人の話を長時間聴くのに慣れていないのが心配。居眠りが出るのではないかといささかきんちょう気味。初日だからハードスケジュールにはならないだろうと勝手に考えている。学生時代は、思うようにサボッていたが、今回はサボれない。若い人に交じっての受講は楽しみでもある。よろしくお願いします。

９月３０日　火曜日　晴　　　　中古味　寛

昼食後、川端課長の案内で玉川大学へ見学に行った。先ず我々に授業をして下さる先生方の紹介があり、長野先生から学園内での諸注意があった。

その後、長野、田中両先生の案内で、我々が授業を受ける各校舎の説明と、各部の部長先生等との引き合わせがあった。

午後３時終了。

今日、玉川学園に（現代の日本）近代的な日本の中にある古きよきなつかしい昔の日本を垣間見たような気がした。

１０月１日　水曜日　雨　　　　宮田好江

今日からいよいよ講義開始。初授業だというのに雨傘を持ってこれなかった先生が多く大さわぎ。町田駅の売店で傘を購入。多量に売れて売店のお兄さんは大喜びでしょう。

第１時限　休講

第２時限　日本語生活研究　金平先生

　○“花いっぱいになあれ”の朗読練習

第３時限　Ｂコースのみ

第４時限　授業演習－中学部

　○授業参観

　○玉川学園中学部国語概要説明－山本先生

ちょっと気になった事

日本語生活研究の時間グループで“花がいっぱいになあれ”を朗読練習するように言われて始めたがＢコースのある生徒は先生への文句は言うし、練習にはくわわらないしでとてもいやな感じだった。この６ケ月間他の生徒との間はどうだったのかしら。

今日は森進一、森昌子の結婚式でも合った。テレビで少しだけ披露宴をみた。

１０月２日　木曜日　曇りのち晴れ

藤井 美智子

今日は、授業第２日目、第１時限からの授業を初めて受けるので様子がわからず、遅れないように7時にセンターを出発、授業開始15分前には、全員教室に揃うことができた。

出掛ける時は、肌寒く雨も降りそうな気配だったので、それぞれしっかり用意して出たけれど、１時限を過ぎる頃には、青空がみえてきた。

第１時限目は、正善先生の日本語教育概論（現地授業研究）正善先生初授業、期待と緊張の中、教室に入ると、Ｂコースの１研修生が、ピアノを弾いていて素晴らしいメロディーを聞き乍ら待っている内に、気持もリラックス。この授業は、Ｂコースの先生と合同、玉川学園での授業をうける心得や諸注意のあと、今期の指導資料を作成する為のアンケート書き、残りは宿題。

第２時限目は、片山先生の日本語学Ⅱ、Ａコースのみ、片山先生は1981年１月～２月にかけて、ボリビア、パラグワイ、ブラジルを訪問された由。

日本語とは何か、一口に言っても非常に幅広く、奥行きが深い為、今後の授業の進め方について、各々、研修生の参考意見を聞かれた。

日本語とは何か、文法とは、及び、助詞の使い方を重点的に指導して下さるとの事。

昼食は、駅前のホカホカ弁当を買ったり、パンを持参したりで、そのまま、Ⅱの204 号室で頂く。

第３時限目、長野先生の日本語教授法

Ａ、Ｂ、合同授業、それに文学部教育学部の３年生、４年生が一緒でＡコースの研修生にとっては、息子や娘のような生徒と授業を受けるわけで、気恥しいような気分であった。

教材として、『おおきなかぶ』をあたえられ、始めに、先生がそれぞれの状況を設定し、学生を指名、その実技のあと、意見を聞いて、そのことについて指導して下さった。この３時限目の授業方法は、私達が、一番望んでいた方法だった。どの研修生も非常によろこび満足の様子だった。次回が待ち遠しい。

夜は、18時から、センター職員、子弟研修生、Ｂコースの皆さんのお招きで、センター食堂で、私達Ａコース研修生の歓迎会をして頂きました。

乾杯のあと、もてなしのお料理に舌鼓をうち、楽しい語らいのあと、カラオケ大会、皆さん自慢のノドを披露、カラオケ研修もできる程と、冗談も飛び交い。最後は、Ｂコースの研修生の音頭で、“象さんとくもの巣”“ホーキ・ポーキ”を楽しんで久し振り学生時代に環ったような気持。これからの研修期間、この夜のような、和やかな、雰囲気で、素晴らしい日々が過ごせることを願って。

海外移住センター職員の皆様、よろしくお願いいたします。子弟研修生、そして、Ｂコースの皆さんありがとう！

仲良くやっていきましょう。

西　谷　江美子

１０月３日　　金曜日　　晴

６時50分センターを出る。

第２時の授業演習（小学部）ＡＢ合同で、８時50分くり上げで早めに小学部運動場に行く。皆んな各々元気良くボール、なわとび、おにごっこの様な遊びをしていた。

朝会－子供達によってすべて行われる黙禱、校歌、行進。

月、水曜日、国旗掲揚

第３限　１時　玉川教育　音楽　ＡＢ合同（迫先生）

中南米に詳しい先生で　中南米の歌　Corazon　小原先生の生涯のお話　テープで聞く

身体で覚える歌

プリントを次々と歌いながら　実演しながら歌う

第４限　授業演習—幼稚部　ＡＢ合同（高橋）

一貫教育

全人教育を具現化をめざす幼児教育

きれいな心　徳育
よい　頭　　知育　}　三育併進
つよい身体　体育

頭がふらついて時差ボケが直らず毎日睡眠不足で困る、字もおぼつかなく自分でも唯あせるのみ

夕食後は　１週間の反省　61年度研修生

この次は２週間に１回で反省会をする

塚　田　ミサ子

１０月６日　　月曜日　　はれのちくもり

今日より第二週間目の授業に入る

日本での生活もそれぞれに慣れてきた感あり

第１時限　玉川教育概論　石橋先生

石橋先生はドイツ等に留学されいろいろの例を上げながら、玉川教育についてお話下さるとの事、第一回目なので、創立者の小原先生の略歴を中心に全人教育の一端について語られた、人間そのものにのっとった教育、小原先生の描いた全人教育について、一生懸命学び取りたい。

第２時限　休講（日本語生活研究→金平先生）

幼児部参観　礼拝30分の時間に当たり神のみこころにふれる子供たちの様子が、自然に感じられた。

第３時限　休講（日本事情）

第４時限　日本語学　上原先生

上原先生は1979年外務省派遣による初めて南米７ケ国及びカナダ計８ケ国の移住者子弟の日本語教育について調査研究に行かれたそうで、大変南米事情に明るい先生である。

教育者は人間を扱うつまり古い言葉でいう聖職者である。

日本語教育はどのようにあるべきか、教えていくか、どの様な人間に育てて行くか。

これからの講義が楽しみである。

西谷（ブラジル出身）さん、心身疲労のため休み、幡谷医院にて診察の結果２・３日休校のはこびとなる。

にしたにさん　早く元気になってね。

夜7.30分～8.30分第一回書道教室

１０月７日　　火曜日　　くもり　　　　　千田由紀

今日は朝から雨ふりでした、玉川大学へ通い始めてちょうど一週間過ぎました。

10:40から大竹先生の言語学習心理学の授業を受けました。言語学習の諸問題の説明を大学生になった気分で聞きながら、とてもむずかしく感じました。

２時間目は平山先生の日本語学の授業でした、漢字の起源を絵で教えてもらいながら、なるほどこのようにゲーム式で漢字を子供たちに教えれば楽しくおぼえてもらえるなあ－と思いました。

３時限目の長野先生から「どうして日本語を習わなくてはいけないの」という質問、又はビデオで「今なぜ日本語ブームなのか」と言う問題について、色々と考えさせられました。

時々、授業中に睡魔におそわれる事もありますが、これからもがんばって行こうとおもいます。

１０月８日　　水曜日　　雨のち晴れ　　　　　宮崎高子

第１時限　日本事情　瀬山先生

私達一同（私）が一番待っていた日本事情、初めての授業。最初から最後まで、時間にむだが無く、くたくたになるほど、すばらしい講義をノートするのに、精一杯であった。

日本国、日本人について、その説明の仕方は、くわしく、それでいて簡潔であり、得る所、大であった。現在、エコノミック・アニマルの異名を持つ日本人と国の発展は、いったいどこから来たのか。又私自身日本人でありながら、日本人の不可欠な面の数多くの疑問が、解けはじめた。先生の今日のたった１時間半の授業は、莫大な資料の研究の結果と努力によるものだと心から敬服し、感謝した。

第２時限　休講

第３時限　なし

第４時限　突然の休講で残念でした。

水沢京子

10月9日　木曜日　晴

今日は朝から良い天気。風邪ぎみで気分が悪かったが厚着をしてがんばって出かける。

第1時限　正善先生

1、直接法

2、外国語を使って教える。

3、ローマ字を使って教える。

4、学習者別教授法

5、目的別教授法

6、レベル別教授法　などの話をうかがった。

直接法を使って授業ができれば一番よいのだけれど現地ではどうしても外国語を使って教えなければ理解してくれない。

その点、正善先生のお話をうかがって安心した。

先生は、読む者に感動を与える教科書を使えとおっしゃったが、私もそう思う。

短文をいろいろ書きつらねてあるだけの教科書は練習用に良いかもしれないが感動を与えないだろう。しかし外国では、文型を覚えるための勉強：練習テキストも必要である。

サウデ文協日語校では、光村図書を使って単元ごとのテキストを作って個別指導しているが、あれをもっと充実したものにしようと思った。

第2時限　片山先生

文節に分ける、拍のとり方、音節の説明など私が日頃、何となく見すごしている点を簡潔に教えていただいて、とてもうれしかった。

自分でわかっているので、みすごしている点、生徒に教えていない点がたくさんあるのだなと思った。

助詞の使い方も、先生にぜひいろいろ教えていただきたいと思う。

来週が楽しみだ。

第3時限　長野先生

効率の高い指導のために、又、指導の反省のために、計画・目標をしっかり立てよ。プロであれば常に向上を心がけよといわれた。

全然日本語のわからない生徒に教えていると、一生懸命やっているつもりでも通り一ぺん、上っ面だけの授業になっていたのだなあと思った。

こう云う訓練を四年間うける玉大の生徒たちは幸せだ。

しかし私達も現地に即した教授法を考えだしていかなければならない。

先週先生が云われた、教材をてってい的に研究できる教師に少しづつでもなっていきたいと思う。

１０月１０日　金曜日　晴のち曇り　　　　　　　　　　　　　　　　上 村 ス マ

いつもの通学時間にセンターを出る。ひんやりと肌寒さが身を引きしめさわやかな気分で玉川学園第58回体育祭を見学に行った。（13名）

日も照らず雨も降らず学生、観客にとっても絶好の体育祭日和、全国体育祭で休日とあって観覧席はいっぱいになっていた。

やはり日本！一分の違いもなく９時30分ぴったり開会式に入り花火の音と共に高鳴る楽隊に誘導され行進、入場整列までに30分かかる。

小原学長の挨拶があり、昨年マラソン１位杯を受けた細川君から学長へ優勝杯の返還がありプログラムに移った。

幼稚部から大学までの大勢の生徒だがいかなる進行ぶりが展開されるか、どんなゲームや体操が繰り広げられるかと興味をもってスタートを待った。

①幼稚部、小学部の一千人以上を下記の要領で15分間で済ませたのにはおどろかされた。

スタートと決勝を四筋設け秒きざみにスタートさせ丁度波が押し寄せて行くようであった。決勝点で各組の１位だけを決勝戦へ残し、決勝戦での入賞者にだけ賞品券のようなものを渡していたようで会場の混雑をさけるためにはいいやり方と思った。

②すべての競技が団体種目で主に赤・白・青・黄４色で競われいかにも体育祭の感じが伺えた。

③各種目の進行状態が一秒一分のむだなく水の流れる如く出場、退場ともに小走りにかけいでて記念グランドに終始平和の花が咲いているようであった。◎昼食には松下シスターが重箱づめの五目ずしにえびのお弁当を持って来て下さったのでみんなで御馳走になり山海の珍味に舌つづみを打つ。感謝。

④只一つ心淋しく感じた事は，場内整備と進行の手段の一つかもしれないが小学生すら昼食時でも親子合い寄る姿が見られず一人一人自分のカバンから取り出して食べていたが家族慰安運動会でなく体育祭だからなのか現代それが普通なのだろうかと考えさせられた。

私は特に閉会式をみたかった。ブラジルのある地方では閉会途中から席を立ち主催側の役職にある方に非常に不愉快さを感じさせることがあるので，どんな閉会式が行われるかと最後まで残った。

プログラムが済んでもだれ一立ち上がる父兄もない。なんと秩序正しいことか。不動の姿勢で一同斉唱する校歌は玉川の森にこだまして胸は高鳴り深い感銘を受けた。成田に降りたって今日で二週間目だがいろんな事が勉強できて有難い。

この研修を終え帰国したならばこの秩序の正しさは言うに及ばず日本語の普及と文化伝承に努力したいと今回研修の機会を得ました事をＪＩＣＡに感謝しつつ就床。

〔玉川学園校歌〕

１　空高く　野路は遙けし

　　此の丘に　吾等はつどい

吾が魂の　学舎守らん

2　星あおぎ　暁にまなび

風わたる　野に鋤ふるう

斯くて　吾等人とは成らん

3　神います　み空を仰げ

神はわが　とおつみおや

吾がわざを　よみし給わん

１０月１３日　　月曜日　　晴のち曇り　　　　　　　　　新　井　美智子

己になされんと欲する如く人になせ　　　　ルカ　6-31

今日で移住センターの生活も17日目、各国全員初対面の人ばかりなのに皆もう昔からの知己の様に毎日楽しくすごしている。家庭の事もちょっぴり思い出してはみるけれど、女学生にかえった様な気持で電車に乗り、玉川学園の教室にも馴れて皆とても張り切っている。

第１時限　玉川教育概論１　石橋先生

A、Bコース合同、三日間の連休で皆朝からあくびをしている人が多い。

石橋先生の講義はこれで二度目、小柄な身体ですが玉川学園を代表しての全人教育論に熱が入る。

教育とは人を神にするものでもなく天使にするためでもない、人間を人間らしく教育するためであると、狼少年の話を引用してくわしく講義して下さる。

小原国芳先生が成城学園から今の玉川学園を作るまでの話の後、玉川学園の教育は情操教育に力を入れ、そして芸術的なものを基点とし、真の教養人を作るところ、真、善、美、健、富、聖について車にたとえ、こまにたとえてくわしく講義して下さる。

第２時限　日本語生活研究　金平先生

A、Bコース合同、今日は表現読みの練習と、小学一年生の教科書に出てくる、たぬきの糸車のグループ読みの後、中古味さんのグループ７人の声をテープに録音して皆で聴く、とても上手に読めました。

金平先生はお逢いしただけでほのぼのと温かさが伝わって来る様な感じの先生です。次の授業は谷川俊太郎の詩のプリントをいただき、朗読の練習の宿題が出ました。

第３時限　Bコースのみ

第４時限　日本語学　上原先生

午後２時40分からの授業で天候が悪くなって雨とかみなりがなりはじめ、先生は今のはなんですかとの質問、皆が「かみなりです」と答えた所から、神鳴りについての説明をされ、私達が何も考えずに使っている日常会話と神とが結びついている事を話してくださいました。

大学生と違って私達年寄りぐみのクラスはぐっとくだけた話が出来ると先生もリラックス。

人間と神との係わりは切っても切れない事なのですと結ばれて楽しい講義も終わり、皆いねむりもしないで感心！

夜は移住センターで書道の練習、はじめて書道をした人もいましたが、全員とてもきれいに立派な字が書けました。

10月14日　火曜日　晴　　柿本ソメ

移住センターで御世話になって18日目、日に日に寒さが身にしみて来ている。15名のグループ毎日元気で玉川学園に通っている。

第1時限　休講

第2時限　Aコースのみ

第3時限－第4時限　長野先生指導　AB合同

3時間に渡り授業

学習指導案例－かたかなに付いて

○第一学年の片仮名の大体を読み、また、書くとともに片仮名で書く語に注意すること。

○第二学年では

片仮名を読みまた書くとともに文や文章の中での片仮名の適切な使い方を理解することなど

○第三学年では

片仮名で書く語の種類を知り文や文章の中で適切に使うことなど指導。

片仮名は出来るだけ三年生までにマスターするように教えること、又教師は自分自身が生徒にとって最大の教材であると自覚することであるとの指導。

あくまでも人間性ゆたかな教師でなければならない。

明るい教師と暗い教師を比較して生徒が可愛想であると話された時自分を反省して見た。

ビデオでの指導はユーモアをまじえた楽しい講義でした。

三時間を終わった時皆あーつかれた－とためいきをついた。先生自身もつかれた－を口にしていた。

楽しかったが本当につかれた。

10月15日　水曜日　晴　　久保谷信治

今日はAコース15名全員学園に行く。

1時限　瀬山先生による日本神話について。高校時代を思い出させる。漢字が読みにくいが、たいへん面白い授業であった。

家紋が神紋から来ていると知って新発見。

２時限　金平先生による詩の朗読。

「きりなしうた」を面白く朗読．と中で南米からの４名の視察団が私たちの授業を見に来られた。

３時限　休講

４時限　中学部に行くが、20分遅刻してしまう。全員大学の時間だと思っていた。来週からはだいじょうぶ。

センターに帰って６時半より講堂において新しい部屋割をもらう。

その時にいろいろ問題が出たが、若い人とくらべて見て、私たちＡコースの人たちとＢコースと研修生との間にゼネレーションギャップを見た。

１０月１６日　木曜日　晴　　吉田　オラシオ

日本に到着して20日目。私にとって日本は未踏の地であり、一歩一歩の足どりも、新しい体験であった。

特に方角音痴である私が果たして、いつになったら迷うという心配から解放されるのかなあと、勉強どころじゃなかった。

ようやく、近頃になって、安心して登校することが出来、夜も熟睡することが出来うれしいことである。今朝も、さわやかな微風を顔に受けて、玉川学園に向かう。

学園に於いては、諸先生方の心のこもった講義を全部吸収し、消化しようという熱意が湧き立ってくる。

今日の講義は１時限目正善先生。２時限目片山先生。３時限目は長野先生だった。３時限目の長野先生の時間は、私にとって大変難しいと思う。国語指導案作成は苦しい。でもそれにめげず頑張る心構えでいる。それを消化し、自分の物にしたら、どんなに成果が上がるだろう。

事業団はわざわざ私共のために、食事、宿舎と優遇して下さり、かつ、勉強に必要な物や、いろいろと配慮して下さっている事を思う時、人生の下り坂と言われる五十余歳の身に鞭うち、若い人達に負けないように、更に心を新たにしている。本当に有難く感謝している次第である。

１０月１７日　金曜日　晴後曇り　　鍋　山　儀　典

①石橋先生は休講

②今日の授業演習は小学部の４年算数。図形のうち「ひし形」の学習。図形の勉強においては、磁石付きの道具は便利だ。質問に対する挙手を見て、説明の度合を考えておられる。我々が昔受けた授業と何か違った印象を受ける。ペースがおそい。理解のできない子をおき去りにして、ドンドン進んで

いた感じと大部違う。長野先生の説明も、「なるほどな。」と感心することが多い。本当にうまい授業だったなあと思う。

③連絡ミスによる、授業前準備運動で始まった永井先生の体育授業。記念体育館から大体育館への移動の不満も、永井先生の楽しい授業で消えてしまった。布を使った幼児の体育遊びは、いろいろ参考となる。パラグアイに帰ったら、さっそくやってみよう。「色」についての先生の言葉に教えられるろころが多い。

④授業演習－幼稚部は、高橋先生、指先が大脳に直結していると言う。雑巾しぼり、ぼたんかけ、弁当を包むハンカチ結びなど手先の訓練が大切だと知る。すると、幼児からはしを使う日本人は、やっぱり優秀なのかしら。

１０月１８日　　土曜日　　晴曇り　　　　　　　　　　　　　　　　中古味　　寛

１週間ぶりの休み。規定の時間に朝食を摂ったのは、鍋山先生と吉田先生と私の３人であった。他の皆さんは、今日、授業がないので寛ろいでおられたのであろう。

私は、吉田先生と２人で、元パラグアイに住んでいた知人を訪ねた。鍋山先生は、先生の母校の早稲田大学を訪ねた。

その他の先生方も、それぞれ見学や見物に出かけられた事だろう。

１０月１９日　　日曜日　　晴　　　　　　　　　　　　　　　　藤　井　美智子

いよいよ秋も深まり朝夕の冷え込みも厳しく、南国からの私達にとっては、これからつらいことだろう。

日々、通学の沿線には、稲刈りの風景も見られるようになった。

今日は、日曜日、久し振りゆっくり休み。骨休み。

昨日は、２階から３階へ全員引越しで大変であった。それでも大半の先生方は、朝から、親戚、知人の家や買物等に出られて、センターには、４人残り、昼食、夕食は残留組で自炊。毎日曜日、私は出掛けていて解らなかったが、少人数で、残る事は、どんなに淋しく、侘しいことだろうと、身に滲む一日であった。

１０月２０日　　月曜日　　晴　　　　　　　　　　　　　　　　宮　田　好　江

秋晴れのきれいな空だったが空気がつめたく今迄で一番寒い日でした。

今日で玉川大学の講義も四週目に入りました。皆さん通学にも慣れスムーズに乗り換えもできる様

になり一安心

　1時限　玉川教育概論　石橋先生

小原国芳先生は新教育の開拓である。教育という言葉は「孟子」の三楽の章の中に初めて出て来るがこの教育は英才教育の事であった。

　新教育即ち全人教育とは、頭、手、心の教育である。潜在性なものを顕在性なものへ引き出していくものである。（助成作用という）

　自由と、規則が合って、生活が出来る（止揚作用）

鋭きも鈍さもともに捨て離し錐と槌とに使いわけなば　（広瀬　淡窓）

いい言葉ですね。

　2時限　日本語生活研究　金平先生

プリントの中の8つの詩より各人の好きな詩を選び朗読の練習

　3時限　短歌　金平先生

短歌添削教室という本を頂く。

短歌の生い立ちの話を聞く。

短歌とは、五、七、五、七、七の文字から成る。

本に出ている例題の説明があり、各人何首か作る様、宿題が出る。

○わが母に買ってもらいし　むぎわらぼう
　かぶりて帰る　野道明るし

○芦垣の隈処に立ちて　吾妹子が
　袖もしほほに　泣きぞ思ほゆ

　4時限　日本語学Ⅲ　上原先生

言葉は音声であって基本が大事である。

生活を離れた言葉教育はありえない。

あいさつは時間の経過を表わしたものである。

呼びかけは“な”行音である。

“な”行音は文末を整える。

わらい方は“は”行音である。

“は”行音は、感情を表わす。

基本音としては「なるほど」「やはり」「さては」等がある。

上原先生の第一印象は怖い先生でしたが、講義が続くにつれ良く脱線するおもしろい先生に変わってきました。とても楽しい授業でした。

　夜センターで習字

　日誌当番であった為落ち着かず気が入りませんでした。玉川大学の講義50分は長く感じられますが

習字の60分は物足りない位、短いのはどういう事でしょうか。

川端課長の話し

1．10月30日 センター内の日語教師との懇談会

2．12月1日～6日迄 関西旅行

3．12月8日～20日迄 出身地研修

4．出身地研修計画書を一週間以内に提出の事

玉川大学"第九"演奏会の入場券を頂く

今日から月曜日は4時限迄バッチリ講義があり夜は習字と忙しい日となりました。

明日は、第1時限が無いので少しだけ朝寝坊が出来ます。

同室の先生方はもうお休みです。

やっと日誌も書き終わりました。おやすみなさい。

10月21日 火曜日 水沢京子

今日も朝から良い天気です。きのうより暖かく助かります。火曜日はいつも一時限はありませんので、いつもより少し遅くおきました。

第2時限 大竹先生 言語学習心理学

外国語学習の場合、模倣と強化＝いろいろのパターンを頭にたたきこんで、自動的に言葉が出てくる様になるまでやる、又、スキナーのオペラント条件づけの講義だった。

私は今まで直接法では、外国に住んでいる二世、三世には、理解できないだろうと思っていたが、直接法と言うのは、生徒を一人ぼっちで日本にほっぽり出した状態にするわけだから。案外効果があるかもしれないと、大竹先生のお話を聞いていて思った。ブラジルに帰ったら、さっそくやってみようと思う。

帰納的とか演繹的とか言う専門語は知らなかったけれど、現地で頭をひねって悪戦苦闘していると、けっこう、いろいろ覚えるものだ。私達も少しは自信をもってもいいと思った。

第3時限 平山先生 漢字の起源

私達の知らない漢字のおこりを勉強出来てよかった。

先生は、漢字のおこり、なりたちは、少しがまんして勉強しているとそのうちにパッとわかるようになると言われた。又、象形文字、指示文字、会意文字、形声文字の造字四原則を教えよと言われるが、それには、自分がしっかり漢字の起源の勉強をしなければならないと思った。

第4時限 長野先生 教育指導案

先週に続き

1．何を教えるのか

2、どんな順序で教えるのか

3．どんな方法で教えるのか

4．どんな仕方で評価するのか。

「くさのね　くさのは」の教材であしたまでに前記の4項目を全部入れて、指導案を作って提出しないといけない。

先週提出した「大きなかぶ」の指導案は長野先生の指導して下さった事と、似ても似つかないもので、長野先生にしかられないかとびくびくしていた。ただ、現地では、私達がやっている事をそのまま書いて提出したのだけれど、先生がそれをとりあげて、今日の講義に使われたので赤面のいたりだった。

長野先生にぜひ、南米へ行って、現地の日語学校を見ていただきたい。

次、上村先生の案を取り上げて、とてもおほめになった。さすが上村先生はベテランだと感心した。

夜6時より、海外開発青年隊30名との懇談会

サンパウロへも9名行くと言う。行き先きは、はっきりしなくて不安を感じている人が多いようだった。

10月22日　水曜日　雨　　　　上村スマ

6時起床。窓ごしに見える街路樹の頭がすごくゆれ動いているのでみんな冬支度で食堂へ向い朝食をすませて7時5分ごろセンターを出た。暑い所から来た私達には寒さが一番気になります。

余裕をもって出発し文学部第二校舎玄関で20分待って後教室に入った。

1時限　瀬山先生　日本事情

仏教・仏教芸術の渡来　釈迦と仏教・仏教公伝

菩薩（悲の表現）　仏教芸術の発達について学ぶ

関西旅行に先立って良き見学が出来るよう仏教と仏像の歴史を説く瀬山先生の講義は非常にわかりやすく興味もって聞くことができ一つ一つの仏像に如何に多くの信念がこめられて造られたか理解出来た。

2時限　金平先生　日本語生活研究

詩や短歌等の音読にいかに息づかい（間）に工夫と訓練が必要か、芸にも同じことがいえるということを尾上氏の歌舞技の舞台の必決やあるバレーリーナの名を打つ舞台を持てること等例をあげて説明された。

この点に重点をおいての朗読一人一人教だんに上って発表させられた。A、Bコース合同授業でBコースの中にも上手な生徒がおり両コースともよく読めたといわれ嬉しかった。

3時限　なし

4時限　中学部の授業演習日でしたが丁度試験日だったので長野先生の授業に繰り返え、ＯＨＰ教育機器の機能と視聴覚教育教具について説明あり、説明後ＯＨＰ用教材を作り提出するように宿題が出された。

先週の第一回指導案提出に引き続き第二回指導案作成宿題も提出がせまり頭をいためながら懸命に取り組んでいる。

授業が終わるのを待って直行便に間に合うようにとみんなで走った。夕方は冷え込むというニュースが入ったので少々あわてた。

途中京浜東北線で線路上にビニール袋がからまって交通が一時ストップし、そのため磯子行直行も桜木町で止り回送となり私達は下車し反対ホームで次の電車を待った。10分ぐらい待っていたその間の寒かったこと。パラパラと雨を伴った風は肩をすぼめる程に冷たかった。間もなく大船行きが来たのでつめこむように押し入ってようやく根岸ホームに着いた。いつもより30分遅れて着く。
すぐ食堂へ行き夕食の熱かい御飯とみそ汁のおいしかったこと格別。

窓打つ風の音を耳にしながら、一日のまとめをする者、宿題をする者、今夜は皆真剣な面持ちで机に向かっている。私は明日の天気を気にしながら日誌を綴り消灯の時間となっったので筆を置く。

１０月２３日　　木曜日　　晴　　　　　　　　　　　　　　　西　谷　江美子

5時30分　起床　もう少し寝ていたい気持

7時30分センターを出る。今日は暖かく感じた。

1時限　正善先生

授業始めに「ごんべいさんの赤ちゃん」を皆で歌う。気分転換、肩ほごし10分

昭和61年度　現地日本語学校教師本邦研修

日本語教育概論－現地授業研究資料

＜わたしの日本語学校＞

Ａコース、Ｂコース　資料での中で自分達の学校で問題の点を各校二点位づつ発表する。

カナダ　トロント国語教室（教育理念）（教育方針）（残留孤児の日本語教育のパンフレット）

2時限　片山先生

助詞－共通語　カ行鼻濁音のきまり

　　　共通語の母音の無声化の条件

3時限　長野先生

授業設計「学習指導案作成」玉川大学生と合同Ｂコース

長野先生は本当に教育者を教育するというタイプの先生である。ブラジルから来て本当にこの様な先生の講義が聞ける勉強を教われた事に於いて人生に一つの考えるヒントを与えられた感動する。ジワ

りじわりと宿題を忘れない。五年

4時限　なし

授業が早く終わったので、学校帰途各々買物に散々五々駅から分かれる。

午後　7時より　Aコース

出身地研修計画書についての説明　4階講義室

○移住者子弟技術研修生

日本へ渡航する前に習得しておくべき日本語の基礎（案）

○子弟技術研修生　日本語講習についてのプリントもらう

１０月２４日　金曜日　晴　　塚 田 ミサ子

本邦研修生としてアルゼンチンをたって、早1ケ月、皆、それぞれに日本の生活にも慣れ、今日当たりはセンターを出るのが、バラバラという感じである。

それでも乗り換えの時は一緒になりさすがに習慣的に玉川への通学である。

第1時限　高橋先生　教育概論

初めての先生の講義で、最初私達は緊張気味であったが、日本の教育とのその問題点など教育の原点にせる熱心な話に一同引きこまれてしまった。

日本は教育の面では、大学をのぞいては外国で高く評価されているが、戦後40年、今、様々な問題を抱えて、教育とは何か。

問題点がたくさん上げられた。

画一的	非行問題	教師の体罰
知育偏重	大学教育	創造性
いじめ	受験戦争	登校拒否
物質主義	しつけ	
家族関係	教育目的	
言語のみだれ	文字の乱れ	

第2時限　長野先生

小学部の授業演習が都合でなくなったので、長野先生の授業に変わる。いつもと違って今日は、中古味さんの質問に答えられてから…授業中にも使える（雰囲気がうちとける）ゲームを教えて下さり、楽しい時間を過ごした。

1．メーンコール

2．しりとり（ことばリレー、漢字しりとりなどもあり）

3．ほんやくゲーム

4．電報ゲーム、電話ゲーム
5．リレー童話
6．俳句あそび（A、B、Cに分けて、ことばをつくりあわせる）
7．なぞなぞ
8．その他

子供達がさわがしい時などだまれ、むちをたたく等、最低。もっと工夫し、自然に子供の目が先生の方へくる様、仕向けねばならない。

ルソーは人間は文明が発達したことによって、自分自信が有能機械なのを、忘れてしまっていると言っているそうだ。

私達はもっと自分の手足、アイデア、自分の持物を通してやる事が出来る…さあ皆さん頑張って…

第3時限　迫先生　音楽（第二回）

教育に入ったら、早くも沖縄のうた「　　　」が、静かに流れ…にこやかな先生の姿も見られた。今日は私達7名は、芸術学部が解らず右往、左往、さか道を走ったりで、やっとつく…
迫先生のすばらしいお声は相変らず…

今日ははじめに、ほうせん花のうた沖縄出身の吉田先生をはじめとして、合唱、低音のナンチャマシマシサーユイユイもとてもいい、ハローハロー、頭、かた、ひざ、ヒパテトンチャ　最後の、今、若い人に人気のあるたんぽぽ等、短い90分であった。

書き忘れたが、ほうせん花のうたは、教訓歌だそうで誠に珍しいよい歌で先生は全国に広めようと張り切っていらっしゃるとの事、上村先生のおかげで今日、教えて下さった歌全部を、ピアノとエレクトーンで、吹きこんで下さるとの事…どうもありがとう。本当にこれで、先生の時間が終わるなんて、おしい…もう二回位、増やして欲しいと思う。

午後7時半
Aコースの人々で、1ケ月の反省会と、申し出に関する話し合いを行う。江崎さんもいろいろ事情を聞かされた。

追記　第4時限は、幼稚部面接日に当たり、高橋先生の講義はお休みだった。

10月25日　土曜日　晴　　　　　　　　　　　　千田由紀

朝から天気が良かったが、外に出ると肌寒い。日本の秋とはこういう感じを言うのだろうか。

私達は週日のいそがしい日を過ごし、それぞれ外泊や見学に出かけました。残った先生方は、宿題、読書や洗濯をしています。

開発青年達の声が時々聞こえてきますが、センターの中はシーンと静まっているので寂しいくらいです。なんとのんびりとした土曜日でしょう。

１０月２６日　日曜日　晴　　　　　　　　　　　　　　　　　　　宮崎高子

日本語教師本邦研修生として、日本に着いて、１ケ月が過ぎ、研修期間の１／３が、たってしまった。

どのように１ケ月、過ごしたのだろうか、この間自分は、何を学んだのか、何を感じたのだろうかと考えながら、残る２か月間、有意義に精一杯生きていこうと、新たに決意する。

ブラジル・サンパウロで大勢の申し込み者の中から４名選ぶための面接試験の時、12名の選考委員の方から、「あなたの宗教は何ですか。」と聞かれた。私がありのままに答えると、うなずいてくださった。「人生感」「研修目的」すべて難題であった。ブラジルをはじめ南米諸国は、すべてカトリック教国である。日本は、いったいどうだろう。教育は国の文化、芸術、伝統、宗教と切り離す事はむずかしい。

私は、一カトリック信者として鶴見教会の朝のミサにあずかった。そこで、ヨーロッパから来た一宣教師のすばらしい日本語の説教を聞きながら「平和は謙遜の無い処には、生まれません」という言葉が心に残った。ブラジルで私の帰りを待っている生徒達、宣教師を志す青年をはじめ、多くの若人が、このように日本語ができるようになってくれたらと、心から祈りながら、移住センターに帰った。

短歌、日本語教授法、長野先生の国語科学習指導案を作る宿題を、一生懸命してみた。上手にできなくてもよい、真剣にやれば、必ず進歩させてもらえると確信している。

１０月２７日　晴　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　新井慶子

第１時限　石橋先生　玉川教育論Ⅰ

今日で石橋先生の講義は終わりなので講義にも一層熱が入る。

小原国芳先生の教育論は、宗教なしに考えられない。人間には、宗教心のない人は一人もいないが人間の宗教は、一宗一派の宗教者になれと言っているのではなく静かに自分を見つめる事と考えている。人間がどのような生き方をしているかによって、本源的な意味が違って来るが自分の打算的なものがあって、信仰するのは本当の宗教とは言えない。

宗教とは－本源的な何者かと再び結びつくという意味である。

宗教の本質－「絶対より帰依の感情」これは、本源的なものと完全に合一する。

玉川の教育は、労作なしには考えられない。労作とは

１）大自然、及び環境への働きかけとしての労作

２）研究、文化活動の原理としての労作

３）教科書としての労作

小原国芳先生は

百聞は一見にしかず　されど百聞は一労作に等し

と、言われ教育は個人尊重でなければならないという事を言われているのだと思います。

最後に、石橋先生は、A、Bコース1人1人に自分の講義に対しての感想を聞かれました。

第1時限　金平先生

カセットテープによる「間」の取り方の勉強の後、A、Bコースが二組にわかれ、「おかあさん」の所を朗読練習、水曜日にそれぞれ発表する事になっております。

第3時限　Aコース金平先生

短歌の宿題を提出、1人1人の短歌について皆で話し合ったり先生がこうしたらどうでしょうなどと直して下さり、私ははじめて作った短歌ではずかしかったけれど、先生が添削して下さって何かとても短歌が好きになった様に思います。皆それぞれ個性の出た素晴らしい短歌が出来たので楽しい時間でした。

第4時限　上原先生

全員講義があると思い20分ぐらい教室で待っていました。あまり先生がいらっしゃらないので団長さんが事務室に聞きにいった所、先生は学会に行かれていて休講との事で皆すぐ帰って来ました。

夜はセンターで、書道がありました。「上、下、大、小」の練習でそれぞれ個性のあるすばらしい字がかけました。宮田さんは、風邪気味でお休みでした。

10月28日　火曜日　晴　　　　柿本ソメ

今日は第1時限は無いので朝少しゆっくり出来た。

思えばとうとう1ケ月も過ぎ、これから寒さにむかう事を思うとなつかしいブラジルを思い出し暑さのありがたさを思う今頃である。

第1時限　ナシ

第2時限　大竹先生の言語学習心理学

第一言語。母国語の学習と第二言語の学習

模倣によって学習される。

生まれつき先天性調音神経障害

（喃語）

仮説検証的な過程。語の意味。語の般用

過度の規則化（一般化）仮説に付いての英語

動詞語用。基本形（原形）＋活用語尾

規則変化……不規則変化。不規則。変化。動詞。

（一般化）

規則を適用…正しい形

模倣と自発的発語の比較……模倣とは再構成語
拡充模倣（訂正的模倣）
よって第一言語では、意味…文法…文の模となる。
コミュニケーションの意図、これまでは第一言語である。
やさしい声で指導して下さいましたが聞きとれない点もあり申し訳有りませんが、むずかしいのでわかりませんでした。

第３時限　日本語学一

始めに、玉川での全人教育について話し、全人教育とは、宇宙・秩序・調和的な人格〔シンボル〕とし居り、毎年コスモス祭を行っていると話された。
漢字の音と訓について指導
漢字の読み方、なぜ漢字の読み方には音と訓があるか、漢字がむかし中国から伝わってきた時の読み方など。漢字が外国より日本に入って来たのは、五世紀以前とされているなど又音は、中国語とも外来語とも言われている。訓は日本式読み方で（日本語で有った）とされている。又教師は子供の前では、充分な気配りをして読んで上げるよう指導された。

第４時限　長野先生

（よい教師の条件）に付いて指導して下さった。教師は学問や、文化の内容についての専門家でなくてはならないと、又子供達の心身の発達についての専門家であってほしい。一人一人の教師が充分な指導技術についても専門家でなくてはならない。など
（よい授業よい教師）では、
教師としてんの仕事、又役割など（認識）に付いて、自己の人柄能力。技術などに付いての認識が必要であるとされた。そのうえで知力。体力も。本当に大切であると指導された。

教師としての大事なポイントを教えて下さいました。来月も又、このポイントに付いて教えて頂く事になった。

このすばらしい教えを真剣に学んで帰りたい。

１０月２９日　　水曜日　　曇り時々小雨　　約20度　　　　　　　　吉田　オラシオ

Ａコースの方々は全員出席。

１時限目は瀬山先生の『奈良の都』の歴史について学んだ。学べば学ぶ程に日本に対する知識が深まって行く。

12月の研修旅行に備えて、とても興味のある講義であった。

２時限目は、金平先生の授業で「かあさん」というサトウハチローの詩の朗読、これまた不思議なことにも読んでいるうちに本当に感情がこもってきてＢコースの方なんか、読んでいる最中に声が涙

で途切れてしまった。金平先生の教授テクニックというか本当に感銘を受ける。

3時限目は休講

4時限目は、中学部の詩の勉強参観後、作文指導法を聴講した。直接現地の子供等には難し過ぎる感じがした。

Aコースの先生方は明日から向う五、六日間の連休で心もうきうきして、目が輝いている。

僕も、新潟高田まで行くことになり、その嬉しさ、言葉にいい難い。先月に比べて、1週間がとても早く過ぎて行く。

勉強も、日本を見学するも、研修のうちだと思うと大きく羽をひろげて、高い空まで飛んでみたい。

記し忘れたが、今日又、事業団より、上原先生の"感情教育論""はなぢがナンでえ"児童言語生態研究会の二冊の本を頂いて感謝な事である。

誠に々々有難うございます。

11月4日　火曜日　晴　　久保谷　信　治

今日は大学は30日からの休みで、全員センターで原、服部の両先生より、センター内での日本語授業の苦労ばなしを聞く。

お二人とも先生としては、ベテランだけど二世，三世にすぐ実用になる日本語を教えるのにたいへんな苦労をされたらしい。

つくづく、私たち日本語学校の先生の責任の重さを感じた。私たちが気に付かないような習慣の違いなども教えなければならなかったそうだ。

午後は自由

私は横浜の入国管理事務所に行って滞在期間を延ばしてもらった。そして磯子の区役所に行って外人登録の変更もすませた。

7時半から書道

明日からまた玉川学園に通学。

11月5日　水曜日　曇り　　鍋　山　儀　典

吐く息がだいぶ白くなった。夏物のズボンではもう寒い。玉川にも、もうすぐ暖房が入るそうだ。まことにうれしい。もともと寒さには強かったんだが、パラグアイの酷暑には強くなったかわりに、どうも寒さとか冷えはいけない。だが，やらねばならない。寒さをけ散らし、教室に突入しよう。

瀬山先生の日本事情も平安時代に入る。平安貴族のイメージが、先生のお話でくずれ去ったが、12月の関西旅行で金閣寺を見て、またどう変化するか楽しみである。

金平先生の授業。母のことを考えていたら、自分の朗読の順番を忘れていた。先生の朗読のようには、どうもいかない。教材として、有名人の朗読のテープでも買って帰って練習しようと思う。昔、ラジオで「朗読の時間」なんてのがあったような気がするが、今もやっているのだろうか。

中学部で、三年の自主学習を見学した。全員熱心に課題に取り組んでいた。どうしても、自分の経験との比較になってしまうが、玉川の子供たちは本当によくやる。自分の経験では、教師がしゃべっている時は静かだが、そうでない時は、生徒は落ち着きをなくし、友達のじゃまなどを始めたものだ。ところが玉川では、全員がやる気を見せるのである。これは、自分にとって全く驚きだ。それぞれ自分のレベルのところをやるのだろうと思うのだが、すばらしいことだと思う。これは、やはり玉川の教育理念というものが生徒にも浸透しているからだろう。現時点でなにをなすべきかを自覚している子供を見るのはとても気持ちのよいものだ。

11月6日　木曜日　晴　　中古味　寛

最高の秋晴れだった。A組は全員登校した。

1時限は、正善先生の「日本語教育概論」AB合同授業。まず初めに「かえるの歌」を全員で歌った。次いで視聴覚教育についての話。発音のしかた。音読・朗読の大切さ等の講義があった。

2時限は、片山先生の「日本語学II」で助詞ガ・ハ・ヲ・ニ等の使い方の講義（Aのみ）。

3時限は長野先生の日本語教授法IIで、女子学生の杉山君が教壇に立って、指導案の本時の学習を実習した。その後、いねむりをしていたのでその後の事は知らない。

11月7日　金曜日　晴時々曇り　　藤井　美智子

秋も深まり、玉川学園も紅葉につつまれ、詫び寂の趣き、素晴らしい景色。しかし、今日は又一段と冷気強し。

1時限目　玉川教育概論　高橋清直先生。

高橋先生はアメリカに留学。帰国後大変苦労された由。そのせいでしょうか、とても暖味のある先生です。A、B両コース合同授業。

Aコース全員出席。Bコースは3人も欠席者あり、最近非常に欠席が多いのが気になります。気構え、意気込みが不足しているのではないでしょうか。

授業は、前回の復習から始まり、日本での教育界での問題点をいろいろあげたが、要するに、判断する人の価値感（その人のもっている子供への理想像からの判断）での問題提議であって、その時代時代で変わるものでは、ないだろうかとのこと。

禅の中に昔の家庭の原型を見ることができること。人と人とかかわり合いから学んでいくことが大

切であることを学ぶ。

２時限目　小学部演習

長野先生の案内で、３年生の英語の授業を観る。

英語科担任小川恵子先生の教室

英語での挨拶

Lの音を持つ名詞カードを使って、スピードとリズム感に溢れた授業運び、口の開き方から、舌の動きまで指導

教室が騒がしくなったら、即座に授業に関連した英語の歌を先生が唄い出し、生徒も合唱、いつの間にか授業の態勢に戻す絶妙さ。最後は新らしい歌。Lのつく歌の練習。

「ロンドン橋」初めに歌詞の説明、それから、先生の美しい声につづけて唄い、生徒達はアッと言う間に覚えてしまう。途中、英国の本格的な歌手のテープを聞かせていた。これも重要なこととの事。

この授業参観は非常に意義深いものでした。

このあと、運動場で長野先生とミーティング。演習の中から、積極的に自分の授業に役立つものを学びとるようにと指導を受ける。

３時限目　体育館で、永井先生の実技、A、B合同。ボールを使って、投げる、うける、ころがす、蹴る、弾ませる等いろいろの動作を応用して、１時間たっぷり童心に還った気持で、遊ぶ運動。快い疲労感を味わう。

４時限目　幼稚部部長代理　本田先生

多年の幼稚部の先生としての体験の中から、貴重なお話が沢山あった。教育とは、愛であり、誠実さであり、情熱である……と。

フレーベルの言葉を引用し

“遊ぶことが、子供の生活であり、勉強であること”

遊びの中で学び、発見し、考え、成長するのである……と。

授業のあと、国際教育室の田中先生から特別の連絡事項あり。

1．関西旅行の日程変更の件。

2．11月25日、３時限目平山先生の授業は保留

3．リトミック見学の件も交渉中。

夕方５時ともなれば、外はもうすでに暗い。５時半頃センターに帰着。夕食のあと、６時30分から、第一講義室で江崎職員からお話あり。

1.関西旅行の日程変更。11月29日から12月４日迄となる。

2.12月の日程発表

12月４日センターに帰着

12月５、６日センター自由

12月８、９日玉大にて研修旅行反省会

12月10日センター自由

12月11日～20日迄郷里研修。

３．郷里研修については、原則として、各自の出身地に行くこと。計画書を新たに提出すること明日までに。

４、明10時旅行社の係員が来て、26日離日の人達の手続きあり。

７時30分から、習字教室

神山先生の指導で、"花鳥風月"行書の練習

８時30分終了

11月25日と28日夜、習字教室をやりますとのおしらせあり。

９時から、食堂にて、Ａコースだけの会議

謝恩会の件

白鳥先生宅訪問の件

植樹について

今日は、ビッチリ４時限全部授業があり、その上、やっと日誌を書き終わった。もうすでに午前２時30分。明日がつらい！

１１月８日　　土曜日　　晴　　　　宮　田　好　江

久しぶりに暖かい日でした。

月曜日からのホテル住まいに必要な物センターに預ける物の整理に忙しい。

40日間のセンターぐらしですが荷物はだいぶ増えるものですね。午前10時ツニブラ旅行社の方がセンターにみえて帰国航空旅券手配にあたり、帰国予定日の確認があった。

12月26日便、１月６日便との３便に別れた。午後からは買物へ、知人宅へ、オペラ鑑賞へとそれぞれ外出。私も友人訪問へ。

１１月９日　　日曜日　　曇りのち雨　　　　宮　田　好　江

今日は寒い日だった。昨日が暖かだったので特別寒く感じたのでしょう。

ホテルに送る荷物を朝のうちに受付迄出して置く様にとの事で、早朝よりテンヤワンヤ

夕方から雨、風邪をひかれた先生方重くならない様気を付けて下さい。

明日は引っ越しです。早めに休みましょう。

11月10日　月曜日　晴　　　　　　　　　　　　　　　　宮　田　好　江

いつもより早めにセンターを出る。

どの先生も昨日送りきれなかった荷物を2袋3袋と持って出たので根岸駅迄でくたびれてしまった様子。今日から10日間の厚木シテイホテル住まいとなります。

移住者が入所との事、開発青年隊30名も居るので満室になり、私達中南米教師が引っ越しするはめになりました。

荷物を玉川大学前駅のロッカーに入れてやっと一息。

1時限　日本語学Ⅲ　平山先生

漢字の三要素を辞典を使っての指導を受ける

三要素とは、形－なりたち

音－読み方（音、訓）

義－①原義

②引伸義

③延伸義

学習という字はどのようななりたちで音訓の読み方は、義（意味）はの辞典の引き方を習う。

2時限　自習　短歌作り

3時限　短歌添削　金平先生

各人が作った短歌をどこを直したらもっと良い歌になるか批評し合い最後に金平先生が手直しして下さった。

4時限　日本語学Ⅲ　上原先生

音声テスト

文学部第三校舎にて行う

テープに各人の声を吹き込む

渡された紙には、ひらがながズラリ、句読点なし意味なしで非常に読みずらかったとは、皆んなの意見でした。このテストで性格まで解るそうです。

上原先生の授業はテストだけでしたので早めに下校一同そろって本厚木のホテルへ直行。駅前に有るのですが初めてなのでキョロキョロ。根岸より大きい町に皆さん大満足。

夕方川端課長さんがみえて（ホテル迄）出身地研修旅費につき説明があり又各先生の希望も聞かれた。センターでは4人部屋だったのが今日から1人何故か落ち着かない。テレビでもつけましょう。

11月11日　火曜日　　　　　　　　　　　　　　　　　　水　沢　京　子

ホテル第一日の為か、あまり良くねむれなかった。

きのう午後から腹痛で、薬を飲んだけれど、あまり調子が良くない。休みたくはないし、がんばって行く。

1時限　なし

2時限　大竹先生　はなはだ退屈な講義也。

3時限　平山先生　漢字。これは大変良い勉強になります。漢字を分解してみる。ばらす事によって漢字の秘密がわかる。わかれば、その漢字以外の字もわかってくると言う漢字の構造の原理を教えていただいた。この原理を、最初にしつこく教えよ。そうすれば後は生徒が一人で勉強出来るようになる。食べ物も、良くかめば味がわかるが、丸のみでは、味は、わからない。漢字も同じだと、おっしゃった。これからは、教科書を進める事よりも、一つの事をじっくり教えていこうと思う。

心身共に憂鬱な一日でした。

4時限　長野先生休講

１１月１２日　水曜日　晴　　上村スマ

宿舎移転（厚木シティホテル）のためか気分が落ちつかず個室になじめず、ちょっと淋しい感じがする。

通学時間が縮められ乗りかえがないので気楽に通学出来この点はいいが朝食、夕食の外食がつらい。

1時限　瀬山先生

日本の首都の推移と武家政権の都の講義の中で、天皇政権と武家政権が政権争いをくり返し京の都が戦乱で灰となり、又立ちなおり、今日に至ったことを学ぶ

2時限　金平先生

詩の朗読

〔おかあさん〕サトウハチロウの詩朗読をぐループ別に録音した。もっと言葉に感情をこめて朗読するようみんな注意を受けた。自分としては一生懸命読んでいるようでも金平先生の読み方、ゼスチュアを見るとき、私達はほんとうに今までの読み方が如何にあさはかな読みであったかを知らされ大変勉強になった。

この授業中、私は前に座っていたのでわかりませんでしたが先生がBコースの研修生を叱られたので、熱の入れ方が足りないのではないかと思った。又授業を休む生徒が目だちます。

3時限　なし。

4時限　中学部の演習なので、規定時刻より早く2時10分前に校舎に入りコンピュータ室で玉川中学の行事についてビデオを見せてもらった。

小原先生の全人教育に授かる生徒の幸せが合唱の中に溢れ歌・音楽の生活化、人のたましいを清める歌、清らかな豊かな心を育てる歌、歌っていいものだ！私もあらゆる苦難を歌で涙で心を洗って乗

りこえたこともありこのような合唱祭が自分たちの学校で出来たらいいなあと中学行事のビデオ見て感動した。

夜はまだ慣れぬとあって隣りの先生と外食に出たが女性の外食者ってあまり入ってないので気がひけ適当な食堂をさがす時のわびしさといったら、早くいきつけのいい食堂がみつかればと思った。

夕食をすませてホテルへ帰ると昭和61年度歌謡新人賞の発表がテレビに映りブラジルから来て久しぶりに耳をかたむけた。中でも特別賞にファンの美空ひばりさんが選ばれ目を見はった。喜びの歌に私の大好きな裏町酒場が歌われ私までが感激し口ずさみ歌っていいなあ！と一日の疲れも忘れるようでした。

今日の日を感謝しつつ床につく。

１１月１３日　木曜日　曇り　　　　西　谷　江美子

１時限　正善先生

日本語教育概論

「現地授業研究」

視聴覚教育①絵②うた③劇

Ａクラスはホテル住まいで良い経験をされる。

この機会を大いに利用して自分は最後は独りだ。

この独立（ひとり）を見つめる（自分自身）を反省し静かに一生の内の一コマを大切にする。

２時限　片山先生

日本語学

助詞　が、を、

昼食　外は寒いので教室で皆んなで食べる。

３時限　長野先生

日本語教授

フローチャート形式－授業における教師の教授活動の手順を記号を使って図示するもの

ＯＨＰを使ってＡＢ研修生コース、玉川の大学生合同で授業をされる大変良い詳しい高等な教授法が転回されて良い。この先生の教授法には感心させられます。

４時限　なし

玉川学園より教育教科書　３冊配布

小学校　国語科教材研究演習

小学校　指導書（国語編）

小学校　国語科教育研究

フローチャート形式－授業における教師の教授活動の手順を記号を使って図示するもの

ＯＨＰを使ってＡＢ研修生コース、玉川の大学合同で授業をされる大変良い詳しい高等な教授法が展開されて良い。この先生の教授法には関心させられます。

４時限　なし

玉川学園より教育教科書　３冊配布

小学校　国語科教材研究演習

小学校　指導書（国語論）

小学校　国語科教育研究

１１月１４日　金曜日　晴　　千田由紀

秋の深まりを感じ、落ち葉の中を今日も全員元気よく玉川大学へ出かけました。

１時限で、高橋靖先生の教育目標の三つの領域には認知的領域と情意的領域と精神運動的領域があり，現在の日本における教育とヨーロッパ（又は南米諸国）との比較をしながら説明を受けました。

２時限、小学部の演習で１年生の国語の授業を見学させてもらいました。漢字の木のかぞくから始まり、生徒全員ののびのびとした発言や発想と共に漢字のなりたちや、木へん、日へんの方面まで発展し、効果を上げている印象的な授業でした。

３時限、永井先生の体育。いつものように幼児にもどった気持でとんだり、はねたりしながら先生の実技を受けました。

たった一枚の厚紙でアイデアーを生かしながら言語を使って体で表現し、その中で幼児に想像力、発表力を豊に養いながら教育できる事のすばらしさに感動してしまいました。

４時限、幼稚部で生徒の小さな椅子に座って本田先生の教材指導を受けました。あとで見せていただいたビデオの中で玉川の幼児教育の様子を知る事ができました。遊びを通しながら幼児達の清らかな心を育て、その成長して行く姿が目に浮かぶようでした。

授業が終わってから幼児教育の教材のカタログをたくさん見せていただき、ほしいものは取りよせてくださると言われて先生の親切に感謝しました。

今日受けた指導はどれもこれも取り入れたいものばかりで、ブラジルに帰ってもぜひ生かして行きたいと思います。

１１月１５日　土曜日

厚木のホテルへ来てはじめてのお休み、今日は朝寝をし、ゆっくりと各自予定のコースで外出する。

宮崎さんの……で国際教育会館の梶谷睦美氏がこちらへ訪ねてこられいろいろお話を伺ったり、ブ

ラジル事情等もお話する、梶谷睦美氏は現在国立教育会館視聴覚係長。12月4・5日. 10hs～16hs裏千家の茶道デモストレーションがあるとのこと。

国際会館ではそれこそ国際的医学会議や日本の先生方の研修、会議、日本の伝統紹介等幅広い活動に、利用されているとの事である。

美味しいコーヒーやサンドウイッチをごちそうになりながら、いつの間にか昼食時になり、これから外出される研修生とも歓談された。……午後，日本語の凡人社（四谷）へ本を買いに行く……

山と積まれた日本語関係の本、私達にはどれもこれも欲しい所だが、お金と相談し、かなりの時間をかけて吟味、図表、子供のための本、漢字カード、日本語のこころ、日本語をさかのぼる等、たくさん……暮れかけた東京をあとにする……本類の重かったこと

１１月１６日　　日曜日

お休みの二日目、昼に外食する他は、ねてはおき、おきては寝ていた人もいたが、大半は……外出……夜になり、大きな荷物を抱いて帰って来た人が多いらしかった。

こうして、ホテルの借住いは一週間過ぎました。

１１月１７日　　月曜日　　くもり　　　　塚　田　ミサ子

朝から薄曇りの寒い日であった。もうオーバーを着る人もあり、木々の葉も冬めいて来たようである。

第１時限　平山先生　日本語学

一週間前より木々は色を増し

学園の丘に秋は深まる　　平山先生作

にこやかに、うれしそうに講義をされる先生であり、本当に私達を思って一生懸命教えて下さる先生である。

今日は漢字の無（宿題．どうして…がついているのか）について、最初説明して下さった。

…→れんが，れっか→火…

火と直接関係なく舞と関係あり、ないものをねだるという意味があるという。その後、じゅく語の出来方について勉強した。

第２時限　金平先生　短歌

この間、作歌された方々の歌が出され皆んなで感想、先生が添削された短歌……

○トラクターに若きがのりて草原の土はルピナスの
花をまぜゆく　　　　中吉味

○日本語の復習あるも秋の夜はテレビに吸われ
今宵もすごせる　　　　西谷

○帰る日を指折りかぞえ　あどけなき子らの笑顔
　顕ちてやまずも　　　　　　　　吉田

短歌を作る人のための12章はどの人にも勉強になるので、読んでおく様にということで…順番に読み味のある歌を、その作りについて大切なことを勉強する。

思い出を綴る意味で、人生の一ページをさあ歌心を持って、短歌をつくってみましょう。

第4時限　上原先生　日本語学

先週（11月10日　月曜日）…テストした音声について各自の結果が解ったので配布しますと言って渡されたプリントを見て皆んなびっくり…三回分の表に点線、一直線等などあるばかり…

あまりよく説明は解らなかったが……どなたもＰitchという所では、もっと巾広くなる感じで物をしゃべって見ようと心がけると、もっとおだやかな性格が出来上がったり、奥ゆかしさが感じられたりしますということである。

更に、先生が書かれた「鼻ぢがなんでえ」の中から、子供達の会話を取り出し、具体的に、子どものことばの生態をあきらかにして、考えさせられました。この本は、15年もかけて取材し、研究しつづけた本だそうである。

第１章には、ちいさきものの言語生態（いきざま）の記録とあります。読んでいない人は、早速…はじめて下さい。すばらしい本です……

終了後（17日４時より）
川端課長より発表あり
12月５日　９時半～12時半教材開発　正善先生
　〃　　　１時～４時半レクレーション　石井先生
12月６日　９時半～４時半　日本語　白鳥先生
12月８・９日玉川学園
12月10日12時～３時　西町インターナショナルスクール見学
12月11日出身地研修
　～20日
12月22日東芝科学館見学予定
12月25日終了式５時　送別会６時
出身地研修の東京の人について質疑がかわされた。

１１月１８日　火曜日　晴　　　　　　　　宮崎高子

第１時限　なし

第２時限　言語学習心理学　大竹教授短大

<コミニケーション>についての講義

日本語という説明を使ってのコミニケーションがいかに複雑であるかという説明を英語（ポルトガル語・スペイン語）圏の国で行われる時の注意と共にされる。

日本の文化が"恥の文化"と同時に「さっしの文化」と呼ばれている。言語にしなくても、相手にさっしてもらう。土居健郎「甘えの構造」の中に書かれている要点として、国によっては聞いてはいけないことがある。

文化的省略

a）ほんの一口ですが（どうぞ召し上がってください。）

b）お茶が入りましたが（飲みにいらっしてください。）

c）でもあまり遅くなると（ご迷惑になりますよ。）

日本人は、相手に対して、ことわる事を、明瞭にしないことが美徳という悪い習慣があり…「善処します」「考えておきましょう」→つまりできないということ。……私自身このためこんなに迷惑したかわからないということは、私の精神的頭脳が日本人では無いということか。それとも、子供のごとくすなおに相手の言葉を信頼するためか。…そういった事を考えるに、こういった世界の国に通用しない日本人の悪い面は、ブラジルの二世三世に残したくないものだと思う。つまり政治家の分野でも大変他国が迷惑をこうむっている。「はい」「いいえ」をはっきりいうことは、相手への愛であると思うと、日本人のにえきらない態度が文化の皮をかぶったずるい動物のようなものに見えてくる。

その上、日本人は、愚妻、愚息等、それらが謙遜を表わすものと思って使っているが、外国にいる者にとって、特に青年達にこのような言語は奇異に見えるだけである。私も青年時代よく「かわい気」が無いといわれた訳がここにあったと気がついた。しかし純粋なこの年の心は一生、続けて行けたらと思っている者にとって日本にいなくてよかったと思った。……大変有意義な講義であった。

第3時限　日本語学Ⅰ　平山教授　文Ⅱ

最後の講義と道急ぐ名残の黄葉見るゆとりなく

平山　忠　作

先週からの続き「例解学習漢字辞典」藤堂　明保編　を使って「熟語の意味のかんけい」についての説明。「略語」「字体のきまり」「略字の功罪」

簡単字はみとめられていない。…曜（旺）歴（厂）質（貭）働（仂）……気をつけよう。

「書体のいろいろ」「かな文字の起こり」

万葉集に使ってある漢字はすべてあて字であったがそれらを簡単にしてカタカナ（一部をとって）を作り、又全部を早く書きひらがなにした。

明治45年になってひらがながきちんと統一された。この先生には、大変心ひかれる。感謝する。

第4時限　日本語教授法　長野教授

「プログラム学習」についての講義

スキナーという人が考案。

我々の複式、複々式授業に、一番効果を上げる教授法という。実際に、我々も、小学生になってそのペーパーマシンと呼ばれる個別学習可能なテストのごときものをさせられる。

プログラム学習の原理

教授形態－個別指導

教授方法－スモール・ステップの原理

積極的反応の原理"LEARNING by DOING"即時確認フィードバックの原理

"KNOWLEDGE of RESULT"

教育授業観－学習者検証の原理

いつものことながらＯＨＰを使っての講義、宿題としてペーパーマシンをするように言われる。何が新しい事のように思ってきいていたら、私もよく青年クラスに、よく似たことをやってきたのに気がついた。解答をつけることを学んだ。

１１月１９日　水曜日　晴

文Ⅱ　１時限　瀬山先生

９時30分より奈良、京都研修旅行の説明的授業となり、Ａ、Ｂコースいっしょに受講した。

それに先たち、９時30分まで、国際室の田中より２、３の伝達事項があった。

(1)11月26日（水）27日（木）の１時限は小学生のリトミックの参観希望者のみ。

26日の初日は、芸術第三校舎のふん水のある所に８時40分までに集合のこと。

(2)27日（木）２時限　文Ｉ406 高橋靖先生（幼）

３時限　木田先生

12時50分までに幼稚部に集合のこと。

(3)28日（金）１時限　２時限　長野先生

午後１時30分　終了式の予定

(4)関西旅行中の昼食の件について研修生（私たち）の意見が求められた。

・ＪＩＣＡは、二重支払いになるので出すことができないが自己負担でも、瀬山先生が計画された場所での食事をすることに同意した。

９時30分～10時30分

「奈良、京都研修案内」の説明を受けた。新横浜に８時集合。プリントにより５泊６日の旅程表の説明